

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	がっこうがくせい かながわがくせい 学校法人 神奈川歯科大学									
フリガナ大学の名称	かながわがくせい がくせい 神奈川歯科大学大学院 (Graduate School of Dentistry, Kanagawa Dental University)									
大学本部の位置	神奈川県横須賀市稲岡町82番地									
大学の目的	大学院(歯学研究科)では、建学の精神を実現する人材として、歯学部における教育の上に、さらに専攻分野について、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、もって文化の向上と社会福祉の増進に貢献しうる人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	当該歯学専攻では大学院(歯学研究科)の目的である人材育成をより具体的に「歯科医療の高度化における諸問題を解決する高い臨床研究能力を持つ人材」として、 ①高い倫理観を持ち、研究と臨床に必要な諸規則を熟知し応用する能力を身につけている。 ②歯学専門領域における臨床的課題を発見する能力の育成と同時に課題解決のために、多様な研究方法論を理解し実践する能力を身につけている。 ③普遍性のある研究成果を広くパブリケーションすることができる能力を身につけている。 ④歯学専門領域を横断する幅広い知識に裏打ちされた柔軟かつ俯瞰的な判断ができるマネジメント能力を身につけている。 ⑤地域における医療の歯科的課題解決を世界の動向を視野に入れて検討できるグローバルな思考能力を身につけている。 この5つの能力を持つ高度な専門性を有する歯科医師を養成することをその目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	歯学研究科 (Graduate School of Dentistry) 歯学専攻 (Doctoral Program in Dental Science) 計	4	18	—	72	博士(歯学)	平成29年4月 第1年次	神奈川県横須賀市稲岡町82番地		
								【基礎となる学部】 歯学部歯学科  14条特例の実施		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		歯科基礎系専攻(廃止) (△9) 歯科臨床系専攻(廃止) (△9) ※平成29年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	歯学研究科 歯学専攻		講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		98科目	11科目	34科目		143科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
	新設分	歯学研究科 歯学専攻	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
		計	21人 (22)	8人 (10)	31人 (32)	35人 (35)	95人 (99)	0人 (0)	1人 (2)	
	既設分	該当なし	—	—	—	—	—	—	—	
		計	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
	合計		21 (22)	8 (10)	31 (32)	35 (35)	95 (99)	0 (0)	1 (2)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員	43人 (46)		94人 (100)		137人 (146)				
	技術職員	2 (2)		0 (0)		2 (2)				
	図書館専門職員	5 (5)		4 (4)		9 (9)				
	その他の職員	87 (94)		268 (275)		355 (369)				
計		137 (147)		366 (379)		503 (526)				
		その他の職員 (医師、歯科医師、 医員、研修歯科医、 看護師、臨床検査技 師、診療放射線技 師、歯科技工士、歯 科衛生士、クリニカル アクト、視能訓練士、 薬剤師、管理栄養 士、特別研究員)								

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	神奈川歯科大学短期 大学部 (6,000㎡) と共用				
	校舎敷地	14,193.6 ㎡	4,560.04 ㎡	2,999.49 ㎡	21,753.13 ㎡					
	運動場用地	0 ㎡	47,106.68 ㎡	0 ㎡	47,106.68 ㎡					
	小 計	14,193.6 ㎡	51,666.72 ㎡	2,999.49 ㎡	68,859.81 ㎡					
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡					
合 計	14,193.6 ㎡	51,666.72 ㎡	2,999.49 ㎡	68,859.81 ㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	神奈川歯科大学短期 大学部 (5,450㎡) と共用				
		26,317.51 ㎡ (26,317.51 ㎡)	8,862.27 ㎡ (8,862.27 ㎡)	10,037.77 ㎡ (10,037.77 ㎡)	45,217.55 ㎡ (45,217.55 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	8 室	6 室	6 室	1 室 (補助職員0人)	1 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		歯学研究科 歯学専攻		68 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定 不能なため、大学全 体の数 (短期大学部 は除く)		
	歯学研究科 歯学専攻	161,000 [67,200] (159,811 [67,124])	2,179 [1,230] (2,179 [1,230])	5,350 [3,647] (5,350 [3,647])	5,400 (5,352)	37 (37)	0 (0)			
	計	161,000 [67,200] (159,811 [67,124])	2,179 [1,230] (2,179 [1,230])	5,350 [3,647] (5,350 [3,647])	5,400 (5,352)	37 (37)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数		大学全体				
		1,792㎡	215	168,389						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		7,418.08㎡	—		—					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費については研究 科単位での特定不 能なため、大学全 体の数  図書費には、電子 ジャーナル・データ ベースの整備費 (運 用コストを含む) を含む。	
		教員1人当り研究費等	—	90千円	90千円	90千円	90千円	—千円		—千円
	共同研究費等	—	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	—千円	—千円		
	図書購入費	56,003千円	56,003千円	56,003千円	56,003千円	56,003千円	—千円	—千円		
	設備購入費	20,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—千円	—千円		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,100千円	700千円	700千円	700千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		医療収入、経常費補助金、寄付金等								
大 学 の 名 称		神奈川歯科大学大学院								
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	取容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	歯学研究科 歯科基礎系専攻	4	9	—	36	博士 (歯学) 博士 (臨床歯 学) 博士 (学術)	0.38	昭和50 年度	神奈川県横須賀市稲 岡町82番地	
	歯科臨床系専攻	4	9	—	36	博士 (歯学) 博士 (臨床歯 学) 博士 (学術)	1.60	昭和50 年度		
	歯学部 歯学科	6	120	—	720	学士 (歯学)	0.72	昭和39 年度		
	短期大学部 歯科衛生学科	3	120	—	360	短期大学士 (歯科衛生学)	0.86	昭和27 年度		
	看護学科	3	80	—	240	短期大学士 (看護学)	1.03	平成19 年度		
名称	神奈川歯科大学附属病院									
附 属 施 設 の 概 要	目的	教育、臨床、研究を3つの柱としている。 教育：臨床参加型の教育の実践 臨床：総合性・専門性の高い診療 研究：先進医療の研究・開発								
	所在地	神奈川県横須賀市稲岡町82番地								
名称	神奈川歯科大学附属横浜研修センター									
目的	横浜研修センターは歯科医学の臨床研修、教育、および研究を推し進め、優秀な歯科医師を育成するため、さらには診療を通して地域医療の一翼を担うために設置された神奈川歯科大学の附属施設です。									
所在地	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町3-31-6									
開設年月日	2002年7月15日									
面積	建築面積 1,168.11㎡ 延床面積 7,956.69㎡									

教育課程等の概要															
( 歯学研究科 歯学専攻 (D) )															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基本科目	研究基盤学	1前	2			○			5	1			1		メディア・オムニバス メディア・オムニバス メディア メディア メディア
	多分野最新研究学	1後	2			○			9	3					
	学術発表演習	2前	2				○			1					
	医学英語演習	2後	2				○		1						
	医学統計演習	2後	2				○		1						
	小計(5科目)	—	10			—			11	4	0	1	0		
専門科目	環境病理学入門	1通		4		○			1						オムニバス
	咀嚼機能制御補綴学入門	1通		4		○			1						
	小児成育歯科学入門	1通		4		○			1		2				
	社会歯科学入門	1通		4		○			1						
	歯周病リスク診断学入門	1通		4		○			1						
	歯髄生物学入門	1通		4		○			1						
	高齢者の全身疾患と管理入門	1通		4		○			1						
	臨床麻酔科学入門	1通		4		○			1						
	障害者歯科学入門	1通		4		○			1						
	咬合医科学入門	1通		4		○			1						
	不正咬合学入門	1通		4		○			1						
	放射線学入門	1通		4		○			1						
	歯学教育学入門	1通		4		○			1						
	内科学入門	1通		4		○			1						
	神経解剖学入門	1通		4		○			1						
	口腔感染症学入門	1通		4		○			1						
	口腔健康科学入門	1通		4		○			1	1	2			オムニバス オムニバス	
	災害医療歯科学入門	1通		4		○			2	2	1				
	口腔分子細胞制御学入門	1通		4		○			1						
	歯の硬組織疾患学入門	1通		4		○			1						
	歯科形態学入門	1通		4		○			1						
	顎顔面外科学入門	1通		4		○				1					
	咀嚼の脳科学入門	1通		4		○				1					
	唾液腺健康医学入門	1通		4		○				1					
	循環制御歯科学入門	1通		4		○				1					
	光歯科医学入門	1通		4		○				1					
	歯科生体材料器械科学入門	1通		4		○				1					
	高度先進睡眠時無呼吸障害入門	1通		4		○			1						
	高度先進麻酔科学入門	1通		4		○			1						
	高度先進矯正学入門	1通		4		○			1						
	高度先進インプラント・歯周病学入門	1通		4		○			1						
	眼科学入門	1通		4		○			1						
	高度先進臨床口腔医学入門	1通		4		○				1					
	小計(33科目)	—		132		—			22	8	5	0	0		
実習	環境病理学実習	2通		4				○	1	1		2			兼2
	咀嚼機能制御補綴学実習	2通		4				○	1		1	5			
	小児成育歯科学実習	2通		4				○	1		3	2			
	社会歯科学実習	2通		4				○	1			1			
	歯周医学実習	2通		4				○	1		2	1			
	歯髄生物学実習	2通		4				○	1		1	1			
	摂食嚥下機能障害支援実習	2通		4				○	1		2	2			
	周術期の循環・呼吸管理実習	2通		4				○	1		2	1			
	咬合医科学実習	2通		4				○	1			1			
	不正咬合学実習	2通		4				○	1			3			
	放射線学実習	2通		4				○	1		2	2			
	歯学教育学基礎実習	2通		4				○	1	2					
	内科学実習	2通		4				○	1						
	神経解剖学実習	2通		4				○	1						
	口腔感染症学実習	2通		4				○	1		1				

教育課程等の概要														
( 歯学研究科 歯学専攻 (D) )														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 実習	口腔健康科学実習	2通		4				○	1	1	2			
	災害法医情報歯科学実習	2通		4				○	1		2			
	災害対応歯科学実習	2通		4				○		1	1			
	災害口腔保健管理学実習	2通		4				○	1	1				
	口腔分子細胞制御学実習	2通		4				○	1		2			
	う蝕制御・修復学実習	2通		4				○	1		2	2		
	歯科形態学実習	2通		4				○	1		1	1		
	顎顔面外科学実習	2通		4				○		1	3	2		
	咀嚼の脳科学実習	2通		4				○		1	1			
	唾液腺健康医学解析実習	2通		4				○		1				
	循環制御歯科学実習	2通		4				○		1	1			
	光歯科学実習	2通		4				○		1				
	歯科生体材料科学実習	2通		4				○		1		2		
	高度先進睡眠時無呼吸障害学実習	2通		4				○	1			1		
	高度先進麻酔科学実習	2通		4				○	1			1		
	高度先進矯正治療診断学実習	2通		4				○	1		1	1		
	高度先進インプラント・歯周病学実習	2通		4				○	1		2	3		
眼科学実習	2通		4				○	1			2			
ミニマルインターベンション補綴学実習	2通		4				○		1	1				
小計(34科目)	—		136				—	22	10	32	33	0	兼2	
統合専門科目 演習	口腔医療学演習	3通		4				○	7	1				オムニバス
	生体管理学演習	3通		4				○	1		4	3		オムニバス
	口腔腫瘍学演習	3通		4				○	2	1	3			オムニバス
	歯学教育学演習	3通		4				○	1	2				オムニバス
	口腔科学演習	3通		4				○	6	4				オムニバス
	災害医療歯科学演習	3通		4				○	1					
	社会総合医療科学演習	3通		4				○	1					
	高度先進口腔医学演習	3通		4				○	4	1				オムニバス
小計(8科目)	—		32				—	20	9	7	3	0	兼2	
選択科目 特論I	口腔病理診断学特論	3後		4				○	1	1				メディア・オムニバス
	咀嚼機能制御補綴学特論	3後		4				○	1					メディア
	口腔機能成育歯科学特論	3後		4				○	1		3	2		メディア・オムニバス
	社会的決定要因特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周病のリスク管理特論	3後		4				○	1		1			メディア・オムニバス
	感染制御医学特論	3後		4				○	1					メディア
	口腔機能管理特論	3後		4				○	1					メディア
	麻酔薬と心筋保護特論	3後		4				○	1					メディア
	障害者病態解析特論	3後		4				○	1					メディア
	高度咬合医学特論	3後		4				○	1					メディア
	咬合医学・咀嚼器官と脳学特論	3後		4				○	1			1		メディア・オムニバス
	臨床画像診断学特論	3後		4				○	1					メディア
	教学IR特論	3後		4				○	1					メディア
	内分泌学特論	3後		4				○	1					メディア
	神経解剖学画像解析特論	3後		4				○	1					メディア
	口腔感染治療学特論	3後		4				○	1					メディア
	フッ化物応用科学特論	3後		4				○	1	1	2			メディア・オムニバス
	歯科法医学特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周組織における骨免疫学特論	3後		4				○	1					メディア
	ブラーク・う蝕制御学特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周・インプラント周囲組織の形態学特論	3後		4				○	1					メディア
	顎顔面インプラント再建外科学特論	3後		4				○		1				メディア
口腔高次脳科学特論	3後		4				○		1				メディア	
片頭痛と咬合学特論	3後		4				○		1				メディア	

教育課程等の概要															
( 歯学研究科 歯学専攻 (D) )															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特論Ⅰ	循環病態薬物療法特論	3後		4		○				1					メディア
	酸化ストレス医学特論	3後		4		○				1					メディア
	接着歯科科学特論	3後		4		○				1					メディア
	高度先進睡眠時無呼吸障害特論	3後		4		○			1						メディア
	高度先進矯正基礎学特論	3後		4		○			1						メディア
	歯周組織再生療法学特論	3後		4		○			1						メディア
	眼科学における機能評価法特論	3後		4		○			1						メディア
	臨床歯科技工特論	3後		4		○				1					メディア
小計(32科目)	—		128		—			22	8	6	3	0			
選択科目	唾液検査学特論	4通		4		○			1						メディア
	先端補綴治療学特論	4通		4		○			1		1	7			メディア・オンライン
	臨床小児成育歯科学特論	4通		4		○			1		3	2			メディア・オンライン
	歯科保健政策特論	4通		4		○			1						メディア
	集学的統合歯周治療学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯髄・硬組織再生医療学特論	4通		4		○			1						メディア
	地域医療連携特論	4通		4		○			1						メディア
	周術期の糖脂質代謝特論	4通		4		○			1						メディア
	障害者行動管理特論	4通		4		○			1						メディア
	デジタル補綴咬合医科学特論	4通		4		○			1						メディア
	咀嚼器官の機能と機能障害学特論	4通		4		○			1			1			メディア・オンライン
	画像工学応用科学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯学教育学学修評価特論	4通		4		○			1						メディア
	炎症性サイトカインと全身疾患特論	4通		4		○			1						メディア
	神経解剖学微細構造観察法特論	4通		4		○			1						メディア
	口腔感染症学特論	4通		4		○			1						メディア
	臨床予防歯科学特論	4通		4		○			1	1	2				メディア・オンライン
	分子歯周組織再生学特論	4通		4		○			1						メディア
	審美修復学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯周・インプラント周囲組織の微小循環特論	4通		4		○			1						メディア
	有病者口腔管理学特論	4通		4		○				1					メディア
	口腔全身統合科学特論	4通		4		○				1					メディア
	唾液腺病態科学特論	4通		4		○				1					メディア
	抗加齢歯科医学特論	4通		4		○				1					メディア
	光線力学療法特論	4通		4		○				1					メディア
	界面制御科学特論	4通		4		○				1					メディア
	高度先進麻酔科学特論	4通		4		○			1						メディア
高度先進矯正臨床応用学特論	4通		4		○			1						メディア	
インプラント周囲組織・表面構造学特論	4通		4		○			1						メディア	
眼科学と全身疾患特論	4通		4		○			1						メディア	
ミニマルインターベンション歯科臨床特論	4通		4		○				1					メディア	
小計(31科目)	—		124		—			21	8	6	10	0			
研究指導科目	(研究指導)	1~4	-	-	-			22	7						
合計(143科目)		—	10	552		—		22	10	32	35	0	兼2		
学位又は称号	博士(歯学)		学位又は学科の分野				歯学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了の要件は、本研究科に4年以上在学し、基本科目5科目10単位、専門科目2科目8単位(入門4単位、実習4単位:入門で選択した同じ専門科目の実習を選択する)、統合専門科目1科目4単位(入門で選択した科目の関連する1科目を選択する)、選択科目として、特論Ⅰを1科目4単位、特論Ⅱを1科目4単位、合計30単位以上を修得し、コースワーク到達試験に合格すること。さらに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
（歯学研究科 歯学専攻（D））															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基本科目	研究基盤学	1前	2			○			5	1					メディア・オムニバス
	多分野最新研究学	1後	2			○			9	3					メディア・オムニバス
	学術発表演習	2前	2				○			1					メディア
	医学英語演習	2後	2				○		1						メディア
	医学統計演習	2後	2				○		1						メディア
	小計（5科目）	—	—	10			—			11	4	0	1	0	
専門科目	環境病理学入門	1通		4		○			1						オムニバス
	咀嚼機能制御補綴学入門	1通		4		○			1						
	小児成育歯科学入門	1通		4		○			1		2				
	社会歯科学入門	1通		4		○			1						
	歯周病リスク診断学入門	1通		4		○			1						
	歯髄生物学入門	1通		4		○			1						
	高齢者の全身疾患と管理入門	1通		4		○			1						
	臨床麻酔科学入門	1通		4		○			1						
	障害者歯科学入門	1通		4		○			1						
	咬合医科学入門	1通		4		○			1						
	不正咬合学入門	1通		4		○			1						
	放射線学入門	1通		4		○			1						
	歯学教育学入門	1通		4		○			1						
	内科学入門	1通		4		○			1						
	神経解剖学入門	1通		4		○			1						
	口腔感染症学入門	1通		4		○			1						
	口腔健康科学入門	1通		4		○			1	1	2				
	災害医療歯科学入門	1通		4		○			2	2	1				
	口腔分子細胞制御学入門	1通		4		○			1						
	歯の硬組織疾患学入門	1通		4		○			1						
	歯科形態学入門	1通		4		○			1						
	顎顔面外科学入門	1通		4		○				1					
	咀嚼の脳科学入門	1通		4		○				1					
	唾液腺健康医学入門	1通		4		○				1					
	循環制御歯科学入門	1通		4		○				1					
	光歯科医学入門	1通		4		○				1					
	歯科生体材料器械科学入門	1通		4		○				1					
小計（27科目）	—	—	108			—			18	7	5	0	0		
実習	環境病理学実習	2通		4		○			1	1		2			兼2
	咀嚼機能制御補綴学実習	2通		4		○			1		1	5			
	小児成育歯科学実習	2通		4		○			1		3	2			
	社会歯科学実習	2通		4		○			1			1			
	歯周医学実習	2通		4		○			1		2	1			
	歯髄生物学実習	2通		4		○			1		1	1			
	摂食嚥下機能障害支援実習	2通		4		○			1		2	2			
	周術期の循環・呼吸管理実習	2通		4		○			1		2	1			
	咬合医科学実習	2通		4		○			1			1			
	不正咬合学実習	2通		4		○			1			3			
	放射線学実習	2通		4		○			1		2	2			
	歯学教育学基礎実習	2通		4		○			1	2					
	内科学実習	2通		4		○			1						
	神経解剖学実習	2通		4		○			1						
	口腔感染症学実習	2通		4		○			1		1				
	口腔健康科学実習	2通		4		○			1	1	2				
	災害法医情報歯科学実習	2通		4		○			1		2				
	災害対応歯科学実習	2通		4		○				1	1				
	災害口腔保健管理学実習	2通		4		○			1	1					
	口腔分子細胞制御学実習	2通		4		○			1		2				

教育課程等の概要														
（歯学研究科 歯学専攻（D））														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 実習	う蝕制御・修復学実習	2通		4				○	1		2	2		
	歯科形態学実習	2通		4				○	1		1	1		
	顎顔面外科学実習	2通		4				○		1	3	2		
	咀嚼の脳科学実習	2通		4				○		1	1			
	唾液腺健康医学解析実習	2通		4				○		1				
	循環制御歯科学実習	2通		4				○		1	1			
	光歯科医学実習	2通		4				○		1				
	歯科生体材料科学実習	2通		4				○		1		2		
	小計（28科目）	—		112				—	18	9	28	26	0	兼2
統合専門科目 演習	口腔医療学演習	3通		4				○	7	1				オムニバス
	生体管理学演習	3通		4				○	1		4	3		オムニバス
	口腔腫瘍学演習	3通		4				○	2	1	3			オムニバス
	歯学教育学演習	3通		4				○	1	2				オムニバス
	口腔科学演習	3通		4				○	6	4				オムニバス
	災害医療歯科学演習	3通		4				○	1					
	社会総合医療科学演習	3通		4				○	1					
	小計（7科目）	—		28				—	16	8	7	3	0	兼2
選択科目 特論Ⅰ	口腔病理診断学特論	3後		4				○	1	1				メディア・オムニバス
	咀嚼機能制御補綴学特論	3後		4				○	1					メディア
	口腔機能成育歯科学特論	3後		4				○	1		3	2		メディア・オムニバス
	社会的決定要因特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周病のリスク管理特論	3後		4				○	1		1			メディア・オムニバス
	感染制御医学特論	3後		4				○	1					メディア
	口腔機能管理特論	3後		4				○	1					メディア
	麻酔薬と心筋保護特論	3後		4				○	1					メディア
	障害者病態解析特論	3後		4				○	1					メディア
	高度咬合医科学特論	3後		4				○	1					メディア
	咬合医学・咀嚼器官と脳学特論	3後		4				○	1			1		メディア・オムニバス
	臨床画像診断学特論	3後		4				○	1					メディア
	教学IR特論	3後		4				○	1					メディア
	内分泌学特論	3後		4				○	1					メディア
	神経解剖学画像解析特論	3後		4				○	1					メディア
	口腔感染治療学特論	3後		4				○	1					メディア
	フッ化物応用科学特論	3後		4				○	1	1	2			メディア・オムニバス
	歯科法医学特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周組織における骨免疫学特論	3後		4				○	1					メディア
	ブランク・う蝕制御学特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周・インプラント周囲組織の形態学特論	3後		4				○	1					メディア
	顎顔面インプラント再建外科学特論	3後		4				○		1				メディア
	口腔高次脳科学特論	3後		4				○		1				メディア
	片頭痛と咬合学特論	3後		4				○		1				メディア
	循環病態薬物療法特論	3後		4				○		1				メディア
	酸化ストレス医学特論	3後		4				○		1				メディア
	接着歯科学特論	3後		4				○		1				メディア
	高度先進睡眠時無呼吸障害特論	3後		4				○	1					メディア
	高度先進矯正基礎学特論	3後		4				○	1					メディア
	歯周組織再生療法学特論	3後		4				○	1					メディア
	眼科学における機能評価法特論	3後		4				○	1					メディア
	臨床歯科技工特論	3後		4				○		1				メディア
小計（32科目）	—		128					—	22	8	6	3	0	

教育課程等の概要															
（歯学研究科 歯学専攻（D））															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目 特論II	唾液検査学特論	4通		4		○			1						メディア
	先端補綴治療学特論	4通		4		○			1		1	7			メディア・オンライン
	臨床小児成育歯科学特論	4通		4		○			1		3	2			メディア・オンライン
	歯科保健政策特論	4通		4		○			1						メディア
	集学的統合歯周治療学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯髄・硬組織再生医療学特論	4通		4		○			1						メディア
	地域医療連携特論	4通		4		○			1						メディア
	周術期の糖脂質代謝特論	4通		4		○			1						メディア
	障害者行動管理特論	4通		4		○			1						メディア
	デジタル補綴咬合医科学特論	4通		4		○			1						メディア
	咀嚼器官の機能と機能障害学特論	4通		4		○			1			1			メディア・オンライン
	画像工学応用科学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯学教育学学修評価特論	4通		4		○			1						メディア
	炎症性サイトカインと全身疾患特論	4通		4		○			1						メディア
	神経解剖学微細構造観察法特論	4通		4		○			1						メディア
	口腔感染症学特論	4通		4		○			1						メディア
	臨床予防歯科学特論	4通		4		○			1	1	2				メディア・オンライン
	分子歯周組織再生学特論	4通		4		○			1						メディア
	審美修復学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯周・インプラント周囲組織の微小循環特論	4通		4		○			1						メディア
	有病者口腔管理学特論	4通		4		○				1					メディア
	口腔全身統合科学特論	4通		4		○				1					メディア
	唾液腺病態科学特論	4通		4		○				1					メディア
	抗加齢歯科医学特論	4通		4		○				1					メディア
	光線力学療法特論	4通		4		○				1					メディア
	界面制御科学特論	4通		4		○				1					メディア
	高度先進麻酔科学特論	4通		4		○			1						メディア
	高度先進矯正臨床応用学特論	4通		4		○			1						メディア
	インプラント周囲組織・表面構造学特論	4通		4		○			1						メディア
	眼科学と全身疾患特論	4通		4		○			1						メディア
	ミニマルインターベンション歯科臨床特論	4通		4		○				1					メディア
小計（31科目）		—		124		—			21	8	6	10	0		
研究指導科目	（研究指導）	1～4	-	-	-				18	6					
合計（130科目）		—	10	500		—			22	10	28	28	0	兼2	
学位又は称号	博士（歯学）		学位又は学科の分野				歯学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了の要件は、本研究科に4年以上在学し、基本科目5科目10単位、専門科目2科目8単位（入門4単位、実習4単位：入門で選択した同じ専門科目の実習を選択する）、統合専門科目1科目4単位（入門で選択した科目の関連する1科目を選択する）、選択科目として、特論Iを1科目4単位、特論IIを1科目4単位、合計30単位以上を修得し、コースワーク到達試験に合格すること。さらに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
( 歯学研究科 歯学専攻 (D) )															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基本科目	研究基盤学	1前	2			○			5	1			1		メディア・オムニバス
	多分野最新研究学	1後	2			○			9	3					メディア・オムニバス
	学術発表演習	2前	2				○			1					メディア
	医学英語演習	2後	2				○		1						メディア
	医学統計演習	2後	2				○		1						メディア
	小計 (5科目)	—	10				—		11	4	0	1	0		
専門科目	高度先進睡眠時無呼吸障害入門	1通		4		○			1						
	高度先進麻酔科学入門	1通		4		○			1						
	高度先進矯正学入門	1通		4		○			1						
	高度先進インプラント・歯周病学入門	1通		4		○			1						
	眼科学入門	1通		4		○			1						
	高度先進臨床口腔医学入門	1通		4		○				1					
	小計 (6科目)	—		24			—		4	1	0	0	0		
	高度先進睡眠時無呼吸障害学実習	2通		4				○	1				1		
	高度先進麻酔科学実習	2通		4				○	1				1		
	高度先進矯正治療学実習	2通		4				○	1		1		1		
	高度先進インプラント・歯周病学実習	2通		4				○	1		2		3		
	眼科学実習	2通		4				○	1				2		
ミニマルインターベンション補綴学実習	2通		4				○		1	1					
小計 (6科目)	—		24				—	4	1	4	7	0			
統合専門科目	高度先進口腔医学演習	3通		4			○		4	1					オムニバス
	小計 (1科目)	—		4			—	4	1	0	0	0			
選択科目	口腔病理診断学特論	3後		4		○			1	1					メディア・オムニバス
	咀嚼機能制御補綴学特論	3後		4		○			1						メディア
	口腔機能成育歯科学特論	3後		4		○			1		3	2			メディア・オムニバス
	社会的決定要因特論	3後		4		○			1						メディア
	歯周病のリスク管理特論	3後		4		○			1		1				メディア・オムニバス
	感染制御医学特論	3後		4		○			1						メディア
	口腔機能管理特論	3後		4		○			1						メディア
	麻酔薬と心筋保護特論	3後		4		○			1						メディア
	障害者病態解析特論	3後		4		○			1						メディア
	高度咬合医学特論	3後		4		○			1						メディア
	咬合医学・咀嚼器官と脳学特論	3後		4		○			1			1			メディア・オムニバス
	臨床画像診断学特論	3後		4		○			1						メディア
	教学 I R 特論	3後		4		○			1						メディア
	内分泌学特論	3後		4		○			1						メディア
	神経解剖学画像解析特論	3後		4		○			1						メディア
	口腔感染治療学特論	3後		4		○			1						メディア
	フッ化物応用科学特論	3後		4		○			1	1	2				メディア・オムニバス
	歯科法医学特論	3後		4		○			1						メディア
	歯周組織における骨免疫学特論	3後		4		○			1						メディア
	ブラーク・う蝕制御学特論	3後		4		○			1						メディア
	歯周・インプラント周囲組織の形態学特論	3後		4		○			1						メディア
	顎顔面インプラント再建外科学特論	3後		4		○				1					メディア
	口腔高次脳科学特論	3後		4		○				1					メディア
	片頭痛と咬合学特論	3後		4		○				1					メディア

教育課程等の概要															
（ 歯学研究科 歯学専攻（D） ）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特論Ⅰ	循環病態薬物療法特論	3後		4		○				1					メディア
	酸化ストレス医学特論	3後		4		○				1					メディア
	接着歯科学特論	3後		4		○				1					メディア
	高度先進睡眠時無呼吸障害特論	3後		4		○			1						メディア
	高度先進矯正基礎学特論	3後		4		○				1					メディア
	歯周組織再生療法学特論	3後		4		○				1					メディア
	眼科学における機能評価法特論	3後		4		○				1					メディア
	臨床歯科技工特論	3後		4		○				1					メディア
	小計（32科目）	—		128		—			22	8	6	3	0		
選択科目	唾液検査学特論	4通		4		○			1						メディア
	先端補綴治療学特論	4通		4		○			1		1	7			研'イ・松ノバス
	臨床小児成育歯科学特論	4通		4		○			1		3	2			研'イ・松ノバス
	歯科保健政策特論	4通		4		○			1						メディア
	集学的統合歯周治療学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯髄・硬組織再生医療学特論	4通		4		○			1						メディア
	地域医療連携特論	4通		4		○			1						メディア
	周術期の糖脂質代謝特論	4通		4		○			1						メディア
	障害者行動管理特論	4通		4		○			1						メディア
	デジタル補綴咬合医科学特論	4通		4		○			1						メディア
	咀嚼器官の機能と機能障害学特論	4通		4		○			1			1			研'イ・松ノバス
	画像工学応用科学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯学教育学修評価特論	4通		4		○			1						メディア
	炎症性サイトカインと全身疾患特論	4通		4		○			1						メディア
	神経解剖学微細構造観察法特論	4通		4		○			1						メディア
	口腔感染症学特論	4通		4		○			1						メディア
	臨床予防歯科学特論	4通		4		○			1	1	2				研'イ・松ノバス
	分子歯周組織再生学特論	4通		4		○			1						メディア
	審美修復学特論	4通		4		○			1						メディア
	歯周・インプラント周囲組織の微小循環特論	4通		4		○			1						メディア
	有病者口腔管理学特論	4通		4		○				1					メディア
	口腔全身統合科学特論	4通		4		○				1					メディア
	唾液腺病態科学特論	4通		4		○				1					メディア
	抗加齢歯科医学特論	4通		4		○				1					メディア
	光線力学療法特論	4通		4		○				1					メディア
	界面制御科学特論	4通		4		○				1					メディア
	高度先進麻酔科学特論	4通		4		○				1					メディア
	高度先進矯正臨床応用学特論	4通		4		○				1					メディア
	インプラント周囲組織・表面構造学特論	4通		4		○				1					メディア
	眼科学と全身疾患特論	4通		4		○				1					メディア
	ミニマルインターベンション歯科臨床特論	4通		4		○				1					メディア
小計（31科目）	—		124		—			21	8	6	10	0			
研究指導科目	（研究指導）	1～4	-	-	-				4	1					
合計（81科目）		—	10	304		—		22	8	11	19	0			
学位又は称号		博士（歯学）			学位又は学科の分野			歯学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了の要件は、本研究科に4年以上在学し、基本科目5科目10単位、専門科目2科目8単位（入門4単位、実習4単位：入門で選択した同じ専門科目の実習を選択する）、統合専門科目1科目4単位（入門で選択した科目の関連する1科目を選択する）、選択科目として、特論Ⅰを1科目4単位、特論Ⅱを1科目4単位、合計30単位以上を修得し、コースワーク到達試験に合格すること。さらに、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 科目	研究基盤学	<p>(概要) 自立した研究者が備えておくべき基本的な事項には、研究倫理および生命倫理に関しての十分な知識、自ら研究課題を設定しそれを解決するための研究手段を構築することができる研究マネジメント能力、研究成果を分かりやすく伝える情報伝達・コミュニケーション能力がある。本科目は、深い学識のもと広い視野で物事を考える力の基礎を涵養することを目的として開講する。さらに、本科目では研究者とのかつてキャリアアップに必要な情報提供も行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (1 槻木恵一/1回)                      研究者として受ける初めての講義であり、研究者とは何かという根源的なテーマをこれまでの高名な研究者を例に挙げ議論する。また、研究不正の防止の観点から、研究者としてあるべき態度を講義する。                      (4 山本龍生/1回)                      疫学研究および臨床研究を行う上で必要な倫理的な事項をはじめ、今後研究者として必要な最も基本的な倫理要件を講義する。                      (13 浜田信城/2回)                      医学の発展においては、実験で動物を用いることがあり、動物実験を適正に行うための必要な心得と倫理を解説する。また、遺伝子組み換え実験を行う上での必要な倫理的な手続きと守るべきルールを解説する。                      (25 猿田樹理/1回)                      研究費獲得の意義と社会的な責任を解説すると同時に科学研究費を題材として、競争的資金の獲得法についても講義する。                      (1 槻木恵一/1回)                      研究者には、近年の国際競争力の源である知的財産に対する深い理解が求められている。そこで本講義では、知的財産の保護と活用法を解説する。                      (4 山本龍生/1回)                      研究者は、歯学研究における大学と企業との関係について熟知する必要がある。利益相反の原理やその運用について解説すると同時に基本的なルールを講義する。                      (2 木本克彦/1回)                      研究者には、その研究成果を公開することが求められており、学術論文はその重要なツールである。そこで、学術論文に関する基本的な事項を解説すると同時に文献検索の意義と方法、さらに管理法について、学術発表演習を受講するための基礎的な事項を講義する。                      (6 石井信之/1回)                      研究発表は、その内容を分かりやすく正しく伝えることが重要である。本講義ではプレゼンテーションのテクニックを教授する。                      (4 山本龍生/1回)                      統計の基本的な考え方や、使い方について概説する。特に、医学統計演習を受講するための基礎的な事項を講義する。                      (1 槻木恵一/1回)                      海外における臨床研究の事例紹介を行うと同時に、世界で活躍する研究者を招聘し、国際的な研究活動について講義する。                      (67 大橋桂/3回)                      大学院に設置されている様々な機器の特徴を解説すると同時に解析の原理について講義する。                      (4 山本龍生/1回)                      1～14回の講義を振り返り、総合学修を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 科目	多分野最新研究学	<p>(概要) 研究基盤学で学んだ、自立した研究者に求められる基礎的な事項を基盤とし、本科目では歯学研究者として特に必要な各論的共通課題について取り上げる。特に、歯学の基礎・臨床・疫学研究における研究デザインの構成論、歯学教育の概論、およびトランスレーショナルな視点からみた最新の研究紹介などを行う。さらに、歯学臨床に必要な歯科研究の専門的能力の基本を講義し人間力の醸成も図る。これらにより歯学研究の専門的な研究活動能力を身につけ研究応用力を養成することを目的として開講する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (1 槻木恵一/1回)                      歯学基礎研究の研究デザインの構成論を講義する。                      (2 木本克彦/1回)                      歯学臨床研究の研究デザインの構成論を講義する。                      (4 山本龍生/1回)                      疫学研究の研究デザインの構成論を講義する。                      (3 木本茂成/1回)                      歯学教育についての基本を講義すると同時にコーチングについて身につけ教育者として必要な事項を教授する。                      (20 不島健持/1回)                      歯学研究の専門家に必要な要件とは何かを講義し、特に倫理的な行動と歯学関連専門職との関係について教授する。                      (13 浜田信城/1回)                      微生物学基礎研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と歯学基礎研究の潮流を解説する。                      (27 吉野文彦/1回)                      薬理学基礎研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と歯学基礎研究の潮流を解説する。                      (28 二瓶智太郎/1回)                      理工学基礎研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と歯学基礎研究の潮流を解説する。                      (2 木本克彦/1回)                      補綴学臨床研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と歯学臨床研究の潮流を解説すると同時にトランスレーショナルリサーチとは何かについて考察する。                      (5 三辺正人/1回)                      歯周病学臨床研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と歯学臨床研究の潮流を解説すると同時にトランスレーショナルリサーチとは何かについて考察する。                      (7 森本佳成/1回)                      全身管理学臨床研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と歯学臨床研究の潮流を解説すると同時にトランスレーショナルリサーチとは何かについて考察する。                      (15 山田良広/1回)                      法医学研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と社会歯学研究の潮流を解説すると同時に、疫学研究から社会に貢献する方策を考察する。                      (4 山本龍生/1回)                      社会歯科学研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と社会歯学研究の潮流を解説すると同時に、疫学研究から社会に貢献する方策を考察する。                      (29 木本一成/1回)                      衛生学研究の最新の解析法や論文を紹介し、世界の最先端の研究と社会歯学研究の潮流を解説すると同時に、疫学研究から社会に貢献する方策を考察する。                      (4 山本龍生/1回)                      1~14回の講義を振り返り、総合学習を行う。</p>	オムニバス方式
	学術発表演習	<p>研究成果を広く公表するために、学術発表および学術論文の公表の基本を習得することを目的とする。具体的には、学術発表方法として(1)抄録の作成方法、(2)口演・ポスター発表方法、論文執筆方法として(3)投稿雑誌の選定・投稿規定・執筆の検討、(4)論文の推敲・パラグラフの構成・図表作成方法、(5)査読結果への対応、校正、投稿方法、(6)実験系原著論文の特徴、(7)臨床系原著論文の特徴について講義する。さらに、学術発表演習を通じて、研究者としての課題に対する考え方を俯瞰的にとらえる能力を討論を通じて身につけさせる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基本科目	医学英語演習	グローバルな研究者には英語力、すなわち英語による会話・プレゼンテーション・ディスカッションの能力、英語による文章・論文作成能力が必須の要件となっている。本演習では、外国人とのコミュニケーション能力と英語論文執筆能力の向上を目標とし医学英語を教授する。特に、読み書き能力の向上を目的に、情報検索、論文執筆およびメールでのやりとりに関与する単語や表現方法を教授する。聞き取り能力向上については、学会等でのディスカッションを目標に、英語に慣れるためのウェブサイト等の利用方法について教授する。		
	医学統計演習	歯学・医学における研究では、ほとんどの場合、研究結果を客観的なデータとして数値化し、数値を用いて数学的に分析することとなる。従って歯学・医学研究を行うためには、統計学的な思考は必須となる。そこで、本演習では統計学的な思考を身につけるために、研究計画について教授するとともに、代表値と分布、検定の考え方、パラメトリックおよびノンパラメトリック検定、回帰と相関、多変量解析といった統計学の基本となる知識を教授し、実際に分析ができるように演習を行う。		
専門科目	入門	環境病理学入門	病気の発生には、外因と内因がある。外因には、感染症や生活習慣病などがあり、それら要因と内因の要素とバランスで疾患は発生する。病理学では主に疾患の発症メカニズムに焦点をあてた疾患病理学的研究が多いが、環境因子がどの様に影響しているかを主眼とした環境病理学的研究も重要である。特に口腔は、外界との入り口であり外因の因子が生体にどう影響するかを、特に感染症モデルでの研究成果と食事因子における口腔粘膜免疫の変化に関する研究成果に焦点をあてて講義する。	
		咀嚼機能制御補綴学入門	歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について学ぶ。本講義では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラント・義歯などの補綴治療の術式とそれに関わる新規材料の選択、さらには咬合咀嚼刺激による全身疾患と高次脳機能の関連について、最新の研究論文を題材に講義を行う。	
	小児成育歯科学入門	(概要) 小児の心身の成長発育に関する基本的な原理と法則について確認を行いながら、健全な口腔機能の育成に不可欠な歯列・咬合の確立における歯および歯周組織の正常な成長過程について修得する。また、小児期の顎・顔面・頭蓋の解剖学と全身の生理的特徴を理解する。さらに、歯胚の発育、乳歯・永久歯の形態的ならびに構造の特徴、歯の萌出機序、顎骨と歯列・咬合の成長発育、歯髄および歯周組織の成長発育を含む形態的な変化と口腔周囲の筋機能の発育による機能的な発達過程について学修し、臨床研究を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。  (オムニバス方式/全30回) (3 木本茂成/15回) 骨格ならびに歯列・咬合の不可逆的な形態異常の原因となる小児期の機能の異常について修得する。  (42 井上吉登/10回) 成長発育過程の口腔機能障害を早期に発見するための診断法について修得する。  (58 浅里仁/5回) 機能の改善を図ることにより、頭蓋顎顔面の正常な発育を促すため、科学的根拠に基づく治療方針の選択基準について修得する。	オムニバス方式	
	社会歯科学入門	高齢化の進展、国民医療費の増大、要介護者の増加、小児におけるうつ有病率の減少など、歯科保健・医療・福祉・介護を取り巻く環境は劇的に変化している。こういったなかで、歯科保健・医療・福祉・介護に関する社会的な課題を発見し、その要因を追求する能力とそれを解決する手段の構築方法を概説する。特に歯科保健・医療・福祉・介護に関する既存の資料の収集法、新たな調査を行う方法と得られたデータの整理、分析、考察の方法について解説する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目  入門	歯周病リスク診断学入門	歯周病は中年期以降の日本人の約 8 割が罹患する慢性炎症性疾患であり、生活習慣病などの全身疾患を増悪する可能性が指摘されている。その治療には主因子であるバイオフィルム中のグラム陰性桿菌である Porphyromonas gingivalis (P. gingivalis) の除去および宿主や喫煙などの環境因子のコントロールが必要不可欠である。そのため、歯周病のリスク（修飾）因子を理解することを目的に、歯周治療の予後に影響を及ぼすリスク因子分析に関する研究論文を題材に、内容の紹介、解説を行う。	
	歯髄生物学入門	歯髄生物学は象牙質歯髄複合体と周囲組織の構造、機能、および病態を解析する学問であり、これを通じて歯および歯周組織疾患への臨床研究的アプローチを提供することを目的とする。また、歯髄は解剖組織学的に周囲を象牙質に囲まれた結合組織であるが、発生学的、組織学的、および機能的に密接に関連することから象牙質歯髄複合体という概念が必要な組織である。歯髄生物学入門では、生体組織としての歯髄の基礎知識と理解のための講義を行い指導する。	
	高齢者の全身疾患と管理入門	日本は超高齢社会を迎え、重篤な全身疾患を有する高齢者が急増している。これら患者の歯科診療にあたっては各疾患に応じた管理が必要で、安全で質の高い歯科医療を展開するうえでも重要な事項である。本講義では、高齢者歯科学および麻酔科学等を専門とする教員により問題解決型の授業を展開する。学生は、さまざまな専門的視点から議論を行い、複数分野にわたる知識の体系化を達成することで、高齢者によくみられる全身疾患を理解し、歯科診療時の管理法に関する専門的知識を修得し、臨床研究を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。	
	臨床麻酔科学入門	麻酔科学は全身麻酔科学および疼痛治療学の分野から成り立ち、特に全身麻酔科学は、全身疾患を有する患者の歯科診療時の全身管理とも密接に関係した分野である。本講義では、麻酔科学を専門とする教員が、それぞれの分野について基本のおよび専門的な解説を行い、問題解決型の授業を展開する。学生は、さまざまな専門的視点から議論を行い、複数分野にわたる知識の体系化を達成することで、麻酔科学の理論と実際を理解し、専門的知識を修得し、臨床研究を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。	
	障害者歯科学入門	知的障害、自閉症スペクトラム障害などの神経発達障害や脳性麻痺、筋ジストロフィーなどの神経疾患、先天異常などの様々な障害がある人の口腔の健康を維持していくためには、その特性により対応や医療に特別な配慮が必要である。本講義を通して各種障害の特性、地域医療連携などに関する必要な基本的知識を身につける。特に、(1)障害者と社会保険および障害者歯科の歴史と現状を認識する。(2)地域医療連携、チームアプローチの重要性について理解を深める。(3)種々の障害の定義、疫学、病院と病態、分類、症状、医療・療育、口腔の特徴、各種障害に対する行動調整、歯科治療について修得し、臨床研究を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。	
	咬合医科学入門	歯科補綴学における咬合の歯科学および医学的意義に関する基礎的な講義を行う。歯科学的には咬合の基盤となる顎関節の解剖、咀嚼筋の解剖と活動、そしてそれらの協調の結果現れるスタティックな咬合様式とダイナミックな下顎運動を学び、顎口腔系における咬合のリハビリテーション手法を理解する。医学的には、咬合が影響する高次脳機能および自律神経機能に関する基本的知識を学び、咬合条件が生体に与える影響を理解することを目的として開講する。	
	不正咬合学入門	不正咬合の種類とその原因を理解する。更に、不正咬合によって引き起こされる各種弊害についても理解する。講義の前半では、不正咬合の種類と不正咬合の要因について解説を行う。講義の後半では不正咬合によって引き起こされる各種弊害についてゼミ形式の講義を行う。特に、(1)不正咬合の種類とその要因についての解説・講義を行う。(2)不正咬合によって引き起こされる各種弊害について学生参加型のゼミ形式での講義を行う。以上により不正咬合学を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	入 門	放射線学入門	各種の臨床的研究や基礎的研究を行う上で、画像検査学的研究手法を知り、研究に応用できることは非常に重要であることから、本科目では画像検査学的研究手法の種類や、それぞれの基本原理について学修する。また、画像検査学的研究手法の中でも、特に電離放射線を利用する場合には、放射線被曝のリスクや放射線防護の知識を身に付けておくことは必須事項であることから、放射線物理学、放射線化学、放射線生物学、放射線防護学に関する全般的な知識について解説する。	
		歯学教育学入門	歯学教育学入門は、教育の実践や開発を行うために必要な基本的な知識を修得することを目的として開講する。授業は講義形式で実施し、神奈川歯科大学の教育システムを理解し、実践するために必要な、概略や教育用語に関する理解を深める。また、能動的な学修方法として、KJ法、problem based learning、team based learningの特徴や、従来型の大教室での講義の特徴などについて解説する。さらに、教育シラバスを作成し、実践するために必要な、教育目標、種々の学修方略や評価法などに関する基本的知識について学修する。	
		内科学入門	高齢社会である本邦では慢性内科疾患を複数もつ人々が増加している。そのために医療の需要が増すのみでなく、その内容も従来と異なる視点が必要である。特に高齢者に多い心血管系疾患、脳血管障害、腎疾患、糖尿病、癌などについては、二次予防、生活管理などへの指導が重要となっている。これら高齢者の診断、治療、医療安全を図るためには医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士など多くのスタッフの協力、すなわちチーム医療が重要であり、これを円滑にすることを目的として様々な内科疾患の病態生理の基礎を学ぶ。	
		神経解剖学入門	神経解剖学を研究する上で重要な組織標本作製法、染色法ならびに免疫組織化学法について光学顕微鏡および電子顕微鏡学的解析に用いられる実験方法に関する講義を行う。さらに咀嚼筋、顔面表情筋および舌筋の運動の制御機構、ならびに口腔の諸感覚を支配する神経回路について神経解剖学的な考察をしようように最新の神経科学に関する研究論文を輪読しゼミ形式の講義を行う。本講義を通して神経解剖学の基本的概念、実験計画の立案、顕微鏡所見の解析方法などが理解できることを目的として開講する。	
		口腔感染症学入門	口腔常在細菌により発症する口腔感染症であるう蝕や歯周病のメカニズムと宿主の防御応答を理解する。微生物学や免疫学分野において口腔領域を中心とした感染と免疫について十分に理解することができるように細菌の構造とともにヒトと微生物の関わりについても講義を行う。また、壮年期以降の成人で罹患率の高い慢性歯周炎の原因である偏性嫌気性グラム陰性細菌 <i>Porphyromonas gingivalis</i> について最新の知見を講義する。さらに、微生物学および免疫学的研究について最新の論文を題材に講義を行う。	
		口腔健康科学入門	(概要) 口腔の健康が全身の健康に大きく影響していることから、歯科口腔保健の推進に関する法律で「口腔の健康は、国民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割をもつ」とされた。そこで、患者および住民が日常的に歯科疾患の予防に向けた取組みを支援できるように、本講義では、最新の情報をもとに「健康とは何か」、「歯科疾患の発生要因と予防」について学び、口腔の健康増進の実践に必要な口腔保健の基礎を理解し、有効な歯科疾患の予防とコントロールの基礎を修得することを目的として開講する。  (オムニバス方式/全30回) (14 荒川浩久/6回) 口腔保健学の概念と健康の定義、生涯歯科保健のための制度、医学研究手法を解説する。  (29 木本一成/8回) 齶蝕、歯周病、歯列不正、その他の歯科疾患の発生要因を解説する。  (54 川村和章/8回) プラークコントロールの概念と歯の沈着物、唾液と口腔の機能の基礎を解説する。  (55 宋 文群/8回) 歯科疾患における疫学指標の意味と算出方法を解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（歯学研究科 歯学専攻（D））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 入門	災害医療歯科学入門	<p>歯科による災害時医療と個人識別の重要性について理解する。災害医療としては、災害の種類と時系列による対処法などの一般論と災害への横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センターとしての対処法や地元自治体との連携など、実践的な各論を理解する。臨床的には急性症状に対する救急処置や即時義歯の作製法、アフターケア等の歯科処置の説明、身元不明死体の個人識別の方法として、指紋・歯科的資料・DNAを用いる方法等の概説を行うと共にそれぞれについて理解する。</p> <p>（オムニバス方式/全30回） （15 山田良広/16回） 災害学と法医学を解説する。</p> <p>（1 槻木恵一/8回） 災害と行政システムを解説する。</p> <p>（29 木本一成/2回） 災害時の口腔衛生を解説する。</p> <p>（28 二瓶智太郎/2回） 災害時の保存治療を解説する。</p> <p>（40 星 憲幸/2回） 災害時の補綴治療を解説する。</p>	オムニバス方式
	口腔分子細胞制御学入門	<p>歯周炎は動脈硬化症や骨粗鬆症など寝たきりや痴呆の原因となる疾患と同様、Quality of Lifeを著しく低下させる生活習慣病として位置づけることができる。また歯周炎の進行に伴って見られる歯槽骨吸収の機序は、関節リウマチの発症機序とも共通性がある。これらの事実から、慢性疾患である歯周炎が全身性疾患と密接な関連を持つことは、もはや疑いがなく歯周炎の発症機序と全身疾患との関連については早急な解明が待ち望まれている。これらの最新の研究成果に焦点をあてて講義をする。</p>	
	歯の硬組織疾患学入門	<p>歯の硬組織疾患の成因について熱力学および生体力学的特性に焦点を当てて解説する。前半では齶蝕および非う蝕性硬組織疾患の成因をpH、カルシウムイオン、リン酸イオンならびにフッ化物イオンといった観点から多角的に論ずるとともに、DIAGNOdentやQuantitative Light Fluorescence (QLF)といったう蝕診断機器の特徴について解説する。後半はそれらの現象を反映した研究手法の紹介とそれらを利用した硬組織疾患予防・治療材料の開発に焦点を当てて論じる。</p>	
	歯科形態学入門	<p>歯科医療の根幹をなすオーラルバイオロジーの基本を形態学の視点から学ぶ。特に歯や歯周・インプラント周囲組織における骨と微小循環に主点をおいて解説する。これらの構造を学び、新たな治療法や材料の開発など臨床歯科医療へとフィードバックできる道筋を立てる。</p> <p>講義は大きく(1)歯と歯周組織の形態、(2)咬合回復に必要な形態、(3)インプラント・歯周組織に関わる形態、(4)再生歯科医療と微小循環のユニット順に進行し基礎歯科医学をバックボーンとした歯科医師を育成することを目的として開講する。</p>	
	顎顔面外科学入門	<p>口腔顎顔面部に発生する多彩な疾患の診断に必要な検査法、治療法を学ぶ。特に悪性腫瘍ではPET検査やサイバーナイフ、口腔乾燥症では最新の概念と質的診断方法、口腔粘膜疾患では自己免疫性水疱形成疾患の最新の検査法や治療法を中心に最新の検査法や治療法を習得する。また、周術期口腔機能管理の概念や方法・成果、終末期患者の口腔管理法についても概説する。さらに、臨床研究を行う上での研究倫理指針、研究計画書作成手順、統計手法、実験方法について教授する。</p>	
	咀嚼の脳科学入門	<p>口腔内主要器官、口腔内知覚の種類とそれを担う脳神経、三叉神経視床路、味覚路、口腔器官の調節を担う自律神経系の経路を概説する。また、咀嚼運動の第一次、第二次中枢、咀嚼に関わる種々の反射弓を解説する。さらに、咀嚼周期、咀嚼リズム、舌運動リズムの中枢性ジェネレータの概説、口腔と中枢神経系との密接な情報交換の経路、その存在の概説を行い、この領域のレビューを題材として理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	入 門	唾液腺健康医学入門	健康な口腔組織を保つために、唾液の存在は不可欠である。唾液には、消化作用、歯面・口腔の清掃のための洗浄作用、殺菌・抗菌作用、緩衝作用、抗脱灰作用、体液量の調節作用などの様々な作用があることが知られている。また、唾液の複雑さについては、その多種多様な機能を理解することが必要である。本講義では、唾液腺および唾液検査に関する基本的な知識を習得することを目標とする。具体的には、(1)唾液腺の解剖学、(2)唾液腺の組織学、(3)唾液検査の基本を学び、講義を行う。(4)唾液腺の研究動向について議論する。
		循環制御歯科学入門	普段の生活習慣が発症や進行に深く関わっている生活習慣病に分類されている高血圧・脂質異常症・糖尿病は、自覚症状がほとんどないまま、体の中で動脈硬化が静かに進行する。これらの生活習慣病のような疾患と全身及び口腔内循環との関連性を紹介し、全身と口腔の循環調節の関連性を理解し、口腔内循環機能の重要性を認識する。さらに、口腔循環に関連した当研究室の成果や他の関連文献の内容を解説し、全身⇄口腔という一連の循環機構の相互的な影響についての認識を深める。
		光歯科医学入門	光、とくに青色光は歯科治療にとって既に欠かせない道具である。ここでは、光の特性を理解し、安全な歯科治療を実践するために必要な基本的な光化学を理解することを目標とする。最初に歯科における青色光の役割や青色光の特性に関する講義を行う。次に、青色光が関わる文献の内容を講義することにより、それらの生体に対する最新の研究について理解を深め、光歯科医学に関わる問題解決の考え方を学ぶ。
		歯科生体材料器械科学入門	歯科材料、生体材料、および歯科器械に関わる基礎知識を修得し、臨床における必要な材料の性質や機器の特徴を文献や講義を通じて解説する。特に審美性材料として臨床で頻用されているセラミックス、ジルコニア、コンポジットレジンなどの脆性材料の性質を他材料と比べた特徴に関して、また、歯科用CAD/CAMシステムの原理や特徴についても講義する。さらに、新しい材料を開発するための科学的知識、生体組織の基礎知識も修得する講義を行い、歯科生体材料器械科学を研究する能力の基本を養成することを目的として開講する。
		高度先進睡眠時無呼吸障害入門	閉塞性睡眠時無呼吸症候群は、心筋梗塞、脳梗塞など生命を脅かす疾患の大きなリスクファクターであるが、その病態生理は人類学的な複雑な機能に関係するため未だに多くのことが解明されていない。睡眠時無呼吸症候群の最新の文献を題材に講義・議論を行うことにより睡眠時無呼吸の生理、病態の問題点について理解を深め研究課題を探る。現在、閉塞性睡眠時無呼吸症候群の治療は、典型的な医歯連携により行われている。口腔内装置の適応、作用機序、臨床的な問題またトピックな矯正治療の応用について理解を深める。
		高度先進麻酔科学入門	麻酔科学は、本来生理学、薬理学などの基礎医学に根ざし、急性期の内科学、外科学、救急医学などの知識を組み入れた周術期の全身管理科学である。内科学、外科学的な病態生理の理解なくして成り立つ臨床科目ではないことから、基本となる循環器、呼吸器、内分泌学を講義し全身管理科学の基礎を育成する。さらに、今後の高度医療・高齢社会者で遭遇するであろう疾患の病態生理を理解し、幅広く全身管理科学・麻酔科学を研究する能力の基本を養成することを目的として開講する。
		高度先進矯正学入門	高度先進矯正臨床の入門として、下記の歯科矯正学の基礎知識に関する講義を行う。(1)歯科矯正概論。(2)顎顔面の解剖学。(3)顎顔面と歯列の成長発育、口腔機能の発達、永久歯の萌出誘導。(4)歯の移動時の歯周組織の生物学的応答。(5)矯正歯科材料学。(6)歯の移動のバイオメカニクス。(7)顎整形力のバイオメカニクス。(8)不正咬合の分類と病因論。(9)顎関節の解剖およびバイオメカニクス。(10)下顎運動の中核制御機構。(11)先進矯正治療概論。
		高度先進インプラント・歯周病学入門	インプラント・歯周病学の基本概念について歯周組織やインプラント周囲組織を十分理解した上で、診査診断・治療計画・治療法・外科治療・メンテナンス・SPTの観点から講義を行う。さらに、歯周組織とインプラント周囲組織の差異について十分認識できるよう講義を行い、それぞれの項目に対する研究論文抄読ならびに解説を行う。その後、各項目に関する研究方法や実施方法を討論する。この結果をもとに、現在実施されている研究のテーマの調査や絞り込みを教育する。以上より、今後の研究課題について検討する。

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
入門	眼科学入門	感覚器の一部である眼に関する基礎的な知識、特に眼科検査、代表疾患を概説できるようにする。講義内容としては、眼科学総論として眼科解剖学、眼科検査の概要を紹介し、主要な症状である視力低下の診方、考え方を習得する。次に各論として代表的な疾患、白内障、緑内障、角結膜疾患、ぶどう膜炎、眼底疾患（糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症など）、斜視・神経眼科疾患の病態、検査、診断、治療、また眼科における手術治療（顕微鏡手術、レーザー治療）について解説し、歯科医師が眼科学を研究する能力の基本を養成することを目的として開講する。	
	高度先進臨床口腔医学入門	高齢化社会の中で大きく変化する疾病構造を通じて、口腔と全身のかかわりを理解し、歯の喪失や咬合の不調によって引き起こされる顎口腔機能及び審美障害などの疾病に対する予防法、診断法、治療法に関する情報収集と分析が実践できる能力を養成することを目的に講義する。特に、最新のデジタルデンティストリーなどのトレンドな知見をテーマにした顎口腔機能及び審美障害に関する論文を題材に学修する。	
専門科目	環境病理学実習	感染症モデルとして、免疫不全マウスを用いた移植実習を行う。特に免疫不全マウスは近年多数が樹立されており、その用途の意義を教授すると同時にヒト組織の移植法とその評価法について実習する。さらに、食事要因が口腔粘膜病変に変化を与えることから、餌の組成とその効果について教授すると同時に、解析法としてELISA、ウエスタンブロット、PCRなどの基本研究手法も実習し、環境病理学の研究手法を応用できるようになり、専門知識を実技を通じて高度化することを目的として開講する。	
	咀嚼機能制御補綴学実習	歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について理解を深める。本実習では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラント・義歯などの補綴治療の術式やそれに関わる新規材料の選択、さらには咬合咀嚼刺激による全身疾患と高次脳機能の関連について実習する。また、日常の臨床現場から生まれる疑問、すなわちリサーチクエスト(RQ)を設定し、研究計画の立案実習も行い、咀嚼機能制御補綴学の専門知識を実技を通じて高度化することを目的として開講する。	
	小児成育歯科学実習	小児期における心身の発育を理解し、小児の身体的特徴ならびに心理的特徴、生理的特徴について修得する。また、全身の成長過程における頭蓋顎顔面領域の形態に影響を及ぼす口腔機能の異常に関する診断と対応法を修得する。具体的には、実際の症例資料を題材として、指導教員とディスカッションを行いながら、正常な成長発育過程における顎・顔面の形態的ならびに機能的変化をもとにした適切な診断と健全な口腔機能を育成するための治療方針の決定、治療計画の立案を通じた小児歯科学の研究手法の修得による、専門知識の高度化を目的として開講する。	
	社会歯科学実習	高齢化の進展、国民医療費の増大、要介護者の増加、小児におけるう蝕有病率の減少など、歯科保健・医療・福祉・介護を取り巻く環境は劇的に変化している。こうしたなかで、歯科保健・医療・福祉・介護に関する社会的な課題を発見し、その要因を追求する能力とそれを解決する手段の構築方法を実習により身につける。特に歯科保健・医療・福祉・介護に関する既存を用いたデータの整理、分析および統計学的検定について、統計解析ソフトを用いて実習を行う。	
	歯周医学実習	歯周病は、糖尿病の合併症であると同時に歯周病の重症化は、糖尿病の発症、悪化のリスク因子でもあることが明らかにされている。この他にも、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) や心血管疾患などが候補として挙げられる。ここでは、歯周病および歯周病と関わる全身疾患の医科歯科連携および歯周病の宿主修飾治療に関する研究手技の解説と実習を行い、研究テーマを立案する能力の高度化をはかる。特に、歯周病重症度と非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 重症度の関連性、歯周病重症度と糖尿病およびその合併症との関連性について検討材料に、歯周医学の知識の深化を実習を通じて養成することを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実習	歯髄生物学実習	本実習では、研究を行う為の研究器具、研究試薬の使用法と原理、および生体細胞と実験動物の基本手技と取り扱いを実習を通じて指導する。特に現在の歯髄生物学の最先端の研究課題である以下の4つの基本概念と研究応用力の養成を主眼とする。(1)根尖性歯周組織疾患に対する研究手技の解説と実技指導を行う。(2)歯髄再生に対する研究手技の解説と実技指導を行う。(3)象牙質再生に対する研究手技の解説と実技指導を行う。(4)歯髄除去療法および感染根管治療に対する臨床研究手技の解説と実技指導を行う。以上により歯髄生物学研究の知識の深化と基本的研究技法を身につけることを目的として開講する。	
	摂食嚥下機能障害支援実習	脳卒中等による要介護高齢者および発達障害児・者では、摂食嚥下障害は誤嚥性肺炎の主因となり生命予後にも大きく影響するため、専門的支援を行うことが重要である。本実習では、摂食嚥下機能障害を理解し、支援に関する専門的な知識・態度・技能を修得することを目標とする。特に摂食嚥下機能障害に関する基本的な病態を解説し、実習を通して検査、訓練および関連する専門的内容を修得する。さらに、発達障害児・者に特有の摂食嚥下機能障害の病態を解説し、実習を通して検査、訓練および関連する専門的内容を修得する。	
	周術期の循環・呼吸管理実習	周術期に最も多い合併症は循環器系および呼吸器系合併症である。したがって、周術期に適切な循環および呼吸管理を行うことは、安全な医療の提供のために最重要課題である。本実習では、麻酔科学を専門とする教員が、それぞれの分野について基本および専門的な解説を行い、検査・診断・対応に関する専門的な実習を行う。学生は本実習を通して循環および呼吸の生理・病理および救急蘇生法を理解し、管理と治療に関する専門的な知識・態度・技能を修得することを目標とする。	
	咬合医科学実習	歯科補綴学における咬合の歯科学および医科学的意義に関する基礎的な実習を行う。歯科学的には咬合の基盤となる顎関節と咀嚼筋の協調の結果として現れる咀嚼運動、発語運動、歯ぎしりなどのダイナミックな顎運動の計測の一連を実習し、顎口腔系における咬合高径、咬合平面、誘導角度などの具体的な咬合のリハビリテーション手法について修得する。また、医科学的には咬合と高次脳機能（脳NIRS）、自律神経機能（生体情報モータ）に関する基本的な計測を行い、咬合条件が生体活動の根源となる活動に与える影響についても実習を通じて修得する。	
	不正咬合学実習	本実習では、歯の再生医療についての体系的な知識を教授し歯の凍結保存や歯根膜再生の実習を行う。具体的には(1)歯の移植、歯の再生医療、歯の凍結保存について実習に必要な知識を講義する。(2)歯根膜再生における生化学的な実験手法について実習を行う。(3)歯の移植についての実験手法においての実習を行う。(4)歯の凍結保存についての実験手法においての実習を行う。(5)歯の再生医療における様々な実験手法を論文にて学び理解を深める。以上の実習により不正咬合の診断治療において最新の研究方法論を身につけることを目標とする。	
	放射線学実習	デジタル画像工学を理解し、自己の研究で活用できるようにするため、デジタルエックス線撮影装置、computed tomography (CT)、歯科用コンビュームCT、 $\mu$ CT、pQCTなど、各種デジタル画像装置の取扱に関する体験的学修を行う。また、収集されたデジタル画像情報に関するデータ処理の方法や、RMSやMTFなどの物理的画質評価解析手法、ROC解析など、画像解析を行う上で身に付けておくことが望ましい基本的な手法について、実習を通して理解を深める。	
	歯学教育学基礎実習	歯学教育学基礎実習は、歯学教育学入門で学習した基本的知識について、実際の教育現場で実践、体験することにより、理解を深め身に付けることを目的として開講する。具体的には、teaching assistantとして実際の教育現場に参加することにより、KJ法、problem based learningなどの学修方略を実践したり、指導教員のteam based learningの教育補助等の実習を行うことで、教育の実践や開発を行うために必要な基本的な知識に関する理解を深めるとともに、教育に必要なIT技術を身に付けるための実習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実習	内科学実習	本実習では、内科外来および臨床検査室で患者の診察および各種臨床検査を実際に行いながら、カンファレンスにて討論をする。また、必要に応じて医師の指示の下、内科外来で診察、治療計画立案、処方を行う。それにより内科疾患を合併した歯科患者の歯科治療を安全に施行できるとともに医師のみでなく看護師、薬剤師、臨床検査技師と密接な連携をはかり医療安全を確保できるようになることを目的として開講する。	
	神経解剖学実習	(1)組織標本の基本的な作製法にかかわる手技、(2)光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡の観察に用いられる各種の染色法、(3)光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡の操作方法について、これらの実験方法に関して実習を行う。さらに、実験より得られた所見、データを神経解剖学的な考察とともに多データと比較、検討しうる最新の方法について、研究室の機器を用いながら体験学習とともに実習を行う。本実習を通して神経解剖学にかかわる実験計画の立案、顕微鏡所見の解析方法、および数値データの統計学的な解析法を身につけることを目的として開講する。	
	口腔感染症学実習	微生物学実験に不可欠な無菌操作技術とともに基本的な染色法の習得と滅菌・消毒法の概念を理解する。細菌の菌種鑑別と細菌の鑑別に用いられる生化学的性状の主な試験方法について修得する。また、口腔環境を理解し、口腔バイオフィルムの成り立ちと口腔微生物の生態系の概要を理解する。さらに、細菌培養についての実験的演習を行うとともに、薬剤力価測定の基本についても実験的演習を行う。加えて、今後必要となる実験手技についても実習を通じて修得する。	
	口腔健康科学実習	口腔の健康増進を実践するために必要な口腔保健の実践手技を修得する。特に以下の項目については重点的に行う。(1)歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシによる物理的ならびに最新の歯磨剤、洗口剤による化学的プラークコントロールの技術を修得する。(2)唾液や歯垢を用いたリスク評価法と口腔機能評価の技術を修得する。(3)齲蝕、歯周病、口臭、歯の損耗などの口腔検査法を修得する。(4)口腔保健調査、研究による予防効果と疾病リスクの影響評価の実際を修得する。以上の実習により口腔健康科学において最新の研究方法論を身につけることを目標とする。	
	災害法医情報歯科学実習	災害時における対応は、各フェーズごとに対応内容が異なり、さらに実践力が必要である。本実習ではフェーズ1に必要な事項として法歯科学的な実践力を身につけると同時に課題を抽出し、課題解決に向けた方法論を学ぶ。特に、身元確認作業や最新の記載方法としてデジタル化が進んでいる電子ペンを用いたデンタルチャート実習を行い、法医情報学的な素養を身につける。さらに、DNA鑑定の基本的な解析実験操作についても実習する。	
	災害対応歯科学実習	災害時における対応は、各フェーズごとに対応内容が異なり、さらに実践力が必要である。本実習ではフェーズ2に必要な事項として一般歯科治療学的な実践力を身につけると同時に課題を抽出し、課題解決に向けた方法論として、補綴材料学の取り扱いと計測方法を学ぶ。特に、即時義歯の作製法の理論と実践を身につけると同時に抗菌材料の取り扱いを身につける。さらに、本学で開発したセルフクリーニングデンチャーの理論と現状を題材とした研究計画の立案実習を行う。	
	災害口腔保健管理学実習	災害時における対応は、各フェーズごとに対応内容が異なり、さらに実践力が必要である。本実習ではフェーズ2以降に必要な事項として口腔保健管理学的な実践力を身につけると同時に課題を抽出し、課題解決に向けた方法論として、様々な災害時の口腔ケアの方法の実習と効果計測方法を学ぶ。また、災害の種類や場所において条件を変えた設定を行い応用力を身につける。これらの実習を通じて、災害口腔保健管理学における研究計画の立案実習を行う。	
	口腔分子細胞制御学実習	近年、再生医療が歯科医学研究において重要な分野として注目され、被験者から採取した細胞を調整・培養し細胞を加工して再生治療が行われている。さらに、骨細胞や骨芽細胞、破骨細胞が存在する骨にインプラント治療も可能となっている。このように、これからの歯科医療では生きた細胞に配慮し、細胞の働きを最大限に引き出す必要性が増すものと考えられる。そこで、本実習を通して細胞培養・生命科学の基本的な知識を身につけることを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実習	う蝕制御・修復学実習	硬組織疾患および修復材料の研究に不可欠な基本的な分析・観察機器すなわちフッ素イオン測定、pH測定、SEM観察等に必要試料の作製法、測定法および分析機器の使用法について実習する。その後、脱灰・再石灰化の定量ならびに微細な変化の観察に有用な先進的手法であるTransverse Microradiography (TMR)、マイクロラマン測定、共焦点レーザー顕微鏡、微小硬さ測定ならびにバイオフィルム研究に必要な試料の作製法、測定・分析機器の使用法について実習する。	
	歯科形態学実習	歯や歯周・インプラント周囲組織の構造を形態学的手法により観察・分析を行える技術を学ぶ。特に、微小循環と骨のリモデリングに関する結果を議論し臨床歯科医療へとフィードバック出来るようにし、顕微鏡、透過型電子顕微鏡試料作製、観察、データ分析に必要な基本操作を習得する。同時にマクロ形態学的手法についても学ぶ。また、口腔領域の硬組織・生体材料を顕微鏡、走査型電子顕微鏡にて試料作製、観察、データ分析が行える技術を習得する。さらに、微小循環研究に関する形態学的手法を身につけることを目的として開講する。	
	顎顔面外科学実習	口腔顎顔面領域に生じる様々な疾患の診断に必要な検査法を修得する。特に血液血清学的検査やCT、MRI、超音波エコー検査、シンチグラフィ、PET検査などの画像検査の解釈と診断法について修得する。また、分子生物学的検査法についてはRT-PCR、Northernblot analysis、Southernblot analysisを学び、専門的な知識・技能を修得することを目標とする。さらに、臨床研究に必要な研究倫理指針、統計手法を学ぶことにより、臨床研究の研究計画書の立案を行えるだけの研究手法を身につけることを目的として開講する。	
	咀嚼の脳科学実習	口腔情報の求心性伝導路、並びに応答としての遠心性伝導路を概説する。この神経経路を基に、咀嚼刺激による種々の脳領域の活性化とその神経生理学的意義を解説する。歯の喪失や不正咬合、ならびに欠損歯の補綴や咬合矯正による口腔機能の変化が脳機能に及ぼす可塑性な変化について、最新の脳科学研究論文を紹介し、理解を深める。神経経路解析法、神経伝達物質定量法、神経生理学的解析法を概説し、これら技術の修得、データ解析の方法、論理的思考方法を修得するための実習を行う。	
	唾液腺健康医学解析実習	近年、実験機器や技術が著しく発展しているが、本実習では唾液腺の機能や唾液分泌のメカニズムを理解するために、唾液腺および唾液検査に関する基本的な実験手法を修得することを目標とする。具体的には、(1)動物実験の手法(解剖・唾液腺の剖出)、(2)遺伝子解析(PCR)、(3)蛋白解析(ELISA、ウェスタンブロット)(4)形態学的解析について実習を行い、(5)げっ歯類からの唾液の採取法についても身につける。以上の実習を通じて唾液腺健康医学講義の知識の深化と技術修得を行うことを目的として開講する。	
	循環制御歯科学実習	口腔内および全身循環系を研究するための基礎的な測定法とその原理を修得し、口腔内循環の重要性を実際に確認する。また、 <i>in vivo</i> における口腔および全身循環機能の測定法について実習する。特にlaser Dopplarfometryを用いた口腔および全身の血流量測定および反応性充血を指標にした口腔および全身循環調節機能評価法について深い理解と応用力を身につけ、循環制御歯科学講義の知識の具現化と応用力を養成することを目的として開講する。	
	光歯科医学実習	本実習では光照射により生じる <i>in vitro</i> 、 <i>in vivo</i> における酸化ストレスの発生原理を理解すると共に、それぞれの環境下において産生される活性酸素・フリーラジカルの測定法を修得する。具体的には活性酸素・フリーラジカルを直接測定可能な電子スピン共鳴法の原理および測定法の習得を目的とし実習を行う。また、摘出組織において生じる酸化ストレスマーカーの生化学的分析手法についても修得する。	
	歯科生体材料科学実習	本実習では、研究するために必要な器具の使用法、機器の原理や測定法を、歯科材料、生体材料の物理的、機械的、化学的な性質について実践を通じて身につける。以下の3つの項目について教授する。(1)種々の歯科材料、生体材料、および機器について専門的な解説を行い、実践する。(2)種々の材料の機械的・物理的性質の測定法を実践する。また、脆性材料の特徴についてもより専門的内容を指導する。(3)歯科生体材料科学研究に必要な器具の使用法と洗浄、表面改質法および表面性状の測定、分析について実践し、歯科生体材料科学の研究手法を身につけることを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実習	高度先進睡眠時無呼吸障害学実習	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の外実習を通して、一泊入院で行なわれるPSG（ポリソムノグラフィー：Polysomnography）検査の結果の読み方を学び、睡眠のステージ、呼吸の状態などの基本的なデータの解釈を深める。そして、正しい検査結果の理解を基礎に、CPAP治療（シーパップ：Continuous Positive Airway Pressure）の原理を習得し、さらに歯科医師に期待されている口腔内装置、矯正治療法を学び、医科歯科連携の治療法の実際を習得する実習を通じて、睡眠時無呼吸障害学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。	
	高度先進麻酔科学実習	麻酔科学は、本来生理学、薬理学などの基礎医学に根ざし、急性期の内科学、外科学などの知識を組み入れた周術期の全身管理学である。そこで、本実習では、術前診査を通して、全身管理においての問題点を見つけ出す能力を身につけることを目標にする。特に検査データの読み方、問診の方法など、その能力の習得を目指す。さらに麻酔の実践を通して危機管理能力を身につける実習を通じて、麻酔科学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。	
	高度先進矯正治療診断学実習	歯科矯正治療の術式を学習し、装置の製作を5つの実習から習得する。(1)顎口腔機能診断実習および矯正線屈曲、蝸着実習。(2)各種矯正装置製作実習（舌側弧線装置、急速拡大装置、顎機能矯正装置、床矯正装置）。(3)タイポドント（マルチブラケット装置）実習。顎顔面の骨格および歯列の包括的三次元診断を習得する。(4)不正咬合における歯列不正を三次元的に診断実習する。(5)不正咬合の背景因子としての、顎変形、および顎口腔機能異常を三次元的かつ包括的に診断実習する。以上の実習を通じて、歯科矯正学の知識の深化と研究手法の身につけることを目的として開講する。	
	高度先進インプラント・歯周病学実習	インプラント・歯周病治療における診断と基本術式について、残存歯の歯周病診断と治療計画について立案する。歯牙欠損部では、インプラント治療の診断と治療計画を立案する。以上の結果から、口腔における治療計画を総合的に判断する能力を養成する。さらに、インプラント周囲組織や歯周組織の機能、診断のカテゴリー分類を熟知、再生歯周外科手術や歯周形成手術（ティッシュマネージメント）、抜歯創の治癒、ソケットブリザベーション等の高度技術の応用を実習し、インプラント・歯周病学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。	
	眼科学実習	日常眼科診療で行われている眼科検査、および眼科手術を実際に経験、見学することにより、視機能回復の過程を学ぶ。また、将来、歯科との臨床研究に利用可能と思われる眼科的検査の検討に必要な基本的な方法論を学ぶ。特に、眼科主要検査に関しては機器を前に目的、使用法、解析法などを概説、眼科手術（白内障、斜視）に関しては、手術法を概説した後実際に、検者、被検者になって検査を体験、眼科手術は白内障、または斜視の手術を見学し、術前の検査結果と術後の検査結果を比較、その視機能回復の評価法を実習する。	
	ミニマルインターベンション補綴学実習	ミニマルインターベンションとは、患者のニーズやQOL向上のため、歯の切削・抜髄・抜歯などの不可逆的な侵襲を避け、必要最小限の処置で口腔の機能・形態の再構築や修復を目指す臨床概念の一つであり、本実習では、既存の概念や常識にこだわらず診療上の問題や疑問点を抽出し、必要な予防法、診断法、治療法に関する基礎的技術の修得を目指し、先進的材料や治療法の開発に向けた基礎的研究計画の立案やデータの収集・分析を行い、ミニマルインターベンション補綴学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合専門科目 演習	口腔医療学演習	<p>(概要) 近年、歯科治療において多分野によるチームアプローチ、いわゆるインターディシプリナリーな治療体系の重要性が高まっている。本演習では、顎口腔機能が崩壊した症例の診断と治療法について問題設定し演習を行う。これらの演習の後に、小児から高齢者のライフコースに基づいた総合的な視点による一口腔単位での診断と治療法を討論し、口腔医療学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)                      (17 向井義晴/3回)                      う蝕治療学について問題設定した演習を行う。                      (6 石井信之/3回)                      歯内療法学について問題設定した演習を行う。                      (5 三辺正人/3回)                      歯周病学について問題設定した演習を行う。                      (2 木本克彦/2回)                      補綴治療学について問題設定した演習を行う。                      (8 玉置勝司/3回)                      顎咬合機能学について問題設定した演習を行う。                      (2 木本克彦/2回)                      インプラント治療学について問題設定した演習を行う。                      (5 三辺正人/3回)                      再生療法学について問題設定した演習を行う。                      (3 木本茂成/3回)                      小児歯科学について問題設定した演習を行う。                      (9 河田俊嗣/3回)                      矯正治療学について問題設定した演習を行う。                      (28 二瓶智太郎/3回)                      先端材料学について問題設定した演習を行う。                      (2 木本克彦/2回)                      総合演習を行う。</p>	オムニバス方式
	生体管理学演習	<p>(概要) 近年、重篤な先天性および後天性全身疾患を有するため、歯科診療時に厳重な生体管理が必要であったり、診療に非協力的なため特別な対応が必要となる患者が増加している。特に、高齢者や障害者における全身麻酔や精神鎮静法時の生体管理は、全身的合併症を発症する可能性が高いため、高度な知識と技能が必要となる。本演習では、高齢者歯科学、障害者歯科学および麻酔科学等のそれぞれの視点から専門的な解説を行うとともに、最新の論文および議論を通して、生体管理学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)                      (7 森本佳成/4回)                      緊急時の反応や対応、救急蘇生法について演習する。                      (46 今泉うの/3回)                      全身麻酔における生体管理について演習する。                      (47 藤原茂樹/4回)                      生体管理に必要なモニタリングについて演習する。                      (86 横江千寿子/3回)                      静脈内鎮静法における生体管理について演習する。                      (35 小松知子/2回)                      障害者における全身麻酔、静脈麻酔などの薬物的行動調整について演習する。                      (68 赤坂 徹/2回)                      障害者の薬物的行動調整における全身状態や生理学的、画像診断学的分析を含めた検査とその評価について演習する。                      (59 飯田貴俊/6回)                      摂食嚥下機能障害を発症する全身疾患、高齢者の機能評価および栄養管理について演習する。                      (88 林 恵美/3回)                      要介護高齢者の口腔機能管理を含めた歯科診療時に必要な生体管理について演習する。                      (7 森本佳成/3回)                      総合演習を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（歯学研究科 歯学専攻（D））			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合専門科目	演習	口腔腫瘍学演習	オムニバス方式
		<p>（概要）悪性腫瘍は現在本邦における死因の一位を占め、その治療成績を向上することが不可欠であることから、様々な角度から基礎的、臨床的な研究が行われている。本演習では、実験腫瘍学から現在実際の臨床現場で行われている悪性腫瘍に対する治療までを含め、腫瘍学についてオムニバス方式で多様な角度から学修する。そして、口腔腫瘍学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。</p> <p>（オムニバス方式/全30回）                      (1 榎木恵一/2回)                      実験腫瘍学の基礎について、病理学的観点から学修するとともに、培地の作成から細胞の取扱いなどを含め、生物学的実験に必要な基本的な実験手技を修得するための演習を実施する。                      (45 小澤重幸/5回)                      実験腫瘍学の実際について、細胞培養のテクニック、実験動物の取扱いから実験動物作成のテクニック、実験プロトコールの作成などに必要な基本的知識を学修し、実験手技を修得するための演習を実施する。                      (43 川股亮太/5回)                      実験用小動物に対する各種画像解析手法について解説し、実験用小動物の硬組織、軟組織の解析に必要な解析法の選択や、それぞれの解析法の原理について解説する。また、サンプル実験等により、実際の解析手法を身に付けるための演習を実施する。                      (10 櫻井孝/5回)                      悪性腫瘍に対する放射線療法と温熱療法に関する物理学的、生物学的基礎知識について解説するとともに、実験腫瘍学や臨床的応用の具体的方法について解説する。また、サンプル実験等により、動物実験に対する放射線照射や加温を実施する上で必要な手法を身に付けるための演習を実施する。                      (23 岩淵博史/5回)                      悪性腫瘍に対する化学療法に関する生物学的、薬理学的基礎知識について解説するとともに、実験腫瘍学や臨床的応用の具体的方法について解説する。また、サンプル実験等により、動物実験に対する化学療法を実施する上で必要な手法を身に付けるための演習を実施する。                      (33 鈴木健司/5回)                      悪性腫瘍に対する外科療法や分子標的療法などに関する基礎知識について解説するとともに、実験腫瘍学や臨床的応用の具体的方法について解説する。また、サンプル実験等により、動物実験に対する分子標的療法や病態評価を実施する上で必要な手法を身に付けるための演習を実施する。                      (10 櫻井孝/3回)                      総合演習を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合専門科目	演習	<p>歯学教育学演習</p> <p>(概要) 歯学教育学演習は、歯学教育学の概論を学修するとともに、教育と学習に関する評価の方法について、演習形式の授業により重点的に学修する。教育の現場においては、教育方略の違いにより学修者の学修到達状況に対する正しい評価方法を実施することが重要である。本演習では、学修方略の違いを考慮した、適切な評価方法の選択に関する理論な基礎知識について学修するとともに、実際の学修者への評価を実践することにより、修得した知識をより一層深めるための演習を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (10 櫻井孝/2回)</p> <p>本邦における高等教育の現状や推移の状態、将来の展望等に関する教育学概論について概説するとともに、重要な関連法規や政令等を理解するための学修を行う。</p> <p>(10 櫻井孝/2回)</p> <p>本邦における歯学教育と高等教育について、欧米や先進諸国との比較により、本邦の特徴や問題点、将来への課題等について概説し、課題解決のためのプロダクト作成等を通して理解を深めるとともに、本学の教育に反映するための方略作成等に関する演習を行う。</p> <p>(31 山本信治/6回)</p> <p>歯学教育における学びの質を保証するために必要な、教育者に求められるティーチングやコーチング、チュートリアル教育等の概念について学修するとともに、学修した内容に則したロールプレイ等を通し、実践するためのスキルを身に付けるための演習を実施する。</p> <p>(30 熊田秀文/6回)</p> <p>多様な学修目標を達成するために、学修目標に適した教育方略の選択基準やそれぞれの教育方略の特徴について理解するとともに、それぞれの教育方略に適した評価方法の選択基準とそれぞれの評価方法の特徴について理解するための演習を行う。</p> <p>(101 菅谷彰/6回)</p> <p>医療系大学教育における技能評価や態度評価を公平かつ客観的に実施するために、ルーブリック評価等様々な評価法の特徴を理解するため、様々な学修モデルに対するルーブリックの作成などを通して、ルーブリック作成に必要とされる基本的概念や知識について理解するための演習を行う。</p> <p>(100 湯山徳行/6回)</p> <p>学修した各種教育評価に関する知識に基づき、実際の教育現場で行われている色々な形式の授業に対する評価を実施することにより、学修成果に関する実践的能力の向上を図るための演習を行う。</p> <p>(10 櫻井孝/2回)</p> <p>総合演習を行う。</p>	オムニバス方式
		<p>口腔科学演習</p> <p>(概要) 健康長寿に寄与することを目的に、疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を修得し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力を身につけることを目的に開講する。形態系歯学では、組織標本作製と顕微鏡検査の使用、口腔内微小循環を修得する。機能系歯学では口腔における抗加齢医学、口腔と脳機能について修得する。病態系歯学では、病因論における環境因子の影響、唾液腺産生物質と遠隔作用のメカニズムを修得する。社会系歯学では、現在の主要課題である根面う蝕の予防と健康格差の是正を修得する。以上により口腔科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (14 荒川浩久/3回)</p> <p>根面う蝕の予防について演習する。 (4 山本龍生/3回)</p> <p>口腔保健の地域格差について演習する。 (12 高橋理/3回)</p> <p>組織標本の作製法、顕微鏡検査の理論と実践について演習する。 (18 松尾雅斗/3回)</p> <p>健康増進と口腔内微小循環について演習する。 (26 高橋俊介または27 吉野文彦/6回)</p> <p>口腔における抗加齢医学について演習する。 (24 山本利春/3回)</p> <p>口腔と脳機能について演習する。 (1 槻木恵一/3回)</p> <p>病因論における環境因子の影響について演習する。 (25 猿田樹理/3回)</p> <p>唾液腺産生物質と遠隔作用のメカニズムについて演習する。 (16 合田征司/3回)</p> <p>総合演習を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（歯学研究科 歯学専攻（D））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
統合専門科目	災害医療歯科学演習	災害は、時間・場所・災害の種類などで様々な様相を呈し、それらに対して十分な検討を行い、対策を準備する必要がある。そこで、本演習では、被害想定を直下型地震、海溝型地震、台風によるがけ崩れやテロなどに設定し、さらに歯科医療が担う役割を検討しシミュレーション法を身につける。また、そのシミュレーションを通じて災害時の歯科医療について課題を見出すとともに、災害医療歯科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。	
	社会総合医療科学演習	医療は医療だけでなく、患者や医療従事者を取り巻く社会環境に大きく影響され、環境要因として法制度、医療安全を含む社会からの要請、社会経済的および地理的要因などが複雑に存在している。そこで本演習では患者の環境要因を社会学および行動科学的視点から、総合的に検討する。さらに医療従事者の環境要因も検討し質の高い医療を提供するために必要な課題を抽出・討論し、解決の方策を検討する。以上の演習を通じて、社会的背景を考慮した全人的医療を行う上で俯瞰的な判断を行う素養を身につけることを目的として開講する。	
	高度先進口腔医学演習	包括的歯科診療実践のための、各専門分野の臨床、診断演習、および治療術式の修得を行う。特に(1)歯冠補綴、インプラント、歯周治療、矯正治療、外科手術、など各専門分野の臨床に関する講義、(2)矯正治療に関わる歯周病学的背景に関する講義、歯周矯正治療の診査、診断、包括診療の講義および実践、(3)不正咬合の背景因子としての顎変形症に関する講義、外科矯正治療の診査、診断、包括診療の講義および実践、(4)顎口腔機能異常の診査、診断、包括診療の講義および実践を行う。以上の演習から俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。  (オムニバス方式/全30回) (21 児玉利朗/6回) ケースプレゼンテーション1 (19 有坂博史/6回) ケースプレゼンテーション2 (22 市邊義章/6回) ケースプレゼンテーション3 (32 井野智/6回) ケースプレゼンテーション4 (20 不島健持/6回) 総合演習を行う。	オムニバス方式
選択科目	口腔病理診断学特論	（概要）口腔病理診断学では、診断に必要な基礎的な事項から応用までを教授する。特に、診断に必要な組織化学的染色概論、免疫組織化学的染色概論、最新の遺伝子解析により確定診断に必要な検索法を教授すると同時にWHO分類および各種取り扱い規約をテキストとして診断に必要な組織学的な事項を解説する。また、病理解剖や細胞診の理論についても講義し、歯科医療における病理診断学の意義と理論を身につけることを目的として開講する。  (オムニバス方式/全30回) (1 槻木恵一/15回) 診断学に必要な組織学的な事項を教授する。 (25 猿田樹理/15回) 組織化学的染色、免疫組織化学的染色、最新の遺伝子解析の理論を教授する。	オムニバス方式
	特論 I	咀嚼機能制御補綴学特論	歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について講義する。本講義では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラント・義歯などの補綴治療の術式やそれに関わる新規材料の選択、さらには咬合咀嚼刺激による全身疾患と高次脳機能の関連について立案された研究計画に基づき行われた研究を紹介する。

授 業 科 目 の 概 要				
（歯学研究科 歯学専攻（D））				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論Ⅰ	口腔機能成育歯科学特論	<p>（概要）小児期の顎・顔面・頭蓋の形態と構造について、その解剖学的・組織学的な特徴を理解し、健全な口腔機能の育成に不可欠な、歯および歯周組織の成長と歯列・咬合の変化についてその正常像を習得する。さらに、正常な発育過程における歯列・咬合と歯周組織の成長発育を含む形態的な変化と口腔周囲の筋機能の発育による機能的な発達過程について理解するとともに、臨床の資料から、その相互作用と正常な発育を阻害する遺伝的因子ならびに環境要因について学修する。</p> <p>（オムニバス方式/全30回）                      （3 木本茂成/10回）                      口腔機能診断：口腔周囲筋の不調和による歯列・咬合ならびに顎顔面部の成長への影響を修得する。                      （42 井上吉登/4回）                      ケースプレゼンテーション1                      （58 浅里仁/4回）                      ケースプレゼンテーション2                      （41 横山三菜/4回）                      機能障害に対する対応口腔筋機能療法の基本的術式ならびに効果について学修する。                      （77 保田将史/4回）                      ケースプレゼンテーション1                      （78 大久保孝一郎/4回）                      ケースプレゼンテーション2</p>	オムニバス方式
		社会的決定要因特論	<p>人々の健康は単に生物学的な要因だけでなく、社会経済的な要因によっても大きく影響を受けている。口腔の健康や歯科保健行動についても同様に、これまで様々な社会的決定要因が報告されている。そこで、先行研究論文を材料として、口腔の健康や歯科保健行動に関する社会的決定要因について概説し、要因への介入方法について議論する。さらに、要因を特定する研究方法論である社会疫学について、その原理および分析方法の実際をまじえて詳説する。</p>	
		歯周病のリスク管理特論	<p>（概要）歯周病は、口腔内環境、衛生状態のみならず栄養摂取状態および喫煙状況など、生活習慣にも大きく左右される疾患であるといえる。そのため、歯周病を単なる炎症性疾患として捉えるのではなく、生活習慣病の1つと捉えて、患者アドヒアランスを高める方法論を学ぶ必要があると考えられる。ここでは、認知行動療法に基づいた口腔清掃指導・支援法および食習慣、禁煙支援法に関する研究論文を題材にして内容の抄読および解説を行い、臨床の場において患者の生活習慣の改善をどのように促すか、その実践について考察する。</p> <p>（オムニバス方式/全30回）                      （5 三辺 正人/15回）                      歯周病と食習慣、栄養（オメガ3系脂肪酸）の関連について議論する。                      （60 金指 幹元/15回）                      歯周病と喫煙の関係と行動変容アプローチに基づいた口腔清掃および禁煙指導と支援法について修得する。</p>	オムニバス方式
		感染制御医学特論	<p>齶蝕の進行により、歯髄炎および根尖歯周組織炎の発症と進展が惹起される。感染制御医学特論では、歯髄炎および根尖歯周組織炎の発症メカニズムにおける細菌学、病理学、免疫学および分子生物学の理解を含め、感染制御の臨床的治療方法について最新の歯科材料、薬剤を使用した手技についての基礎知識と理解を深め、新たな治療法の開発の基礎となる講義をセミナー形式で行い指導する。</p>	
		口腔機能管理特論	<p>全身疾患を有する患者および高齢者では、自立して十分な口腔機能管を行うことが困難である。一方、口腔疾患と全身疾患との関連についてのエビデンスが蓄積され、日常生活や周術期における口腔機能管理が重要視されている。本講義では、周術期および要介護者の口腔機能管理により改善または予防できる全身疾患について、高齢者歯科学および麻酔科学等を専門とする教員が、それぞれの視点から専門的な解説を行うとともに、論文講読および議論を通して専門的な知識・態度・技能を修得することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論 I	麻酔薬と心筋保護特論	心筋の虚血前もしくは再灌流早期に吸入麻酔薬を投与することで心筋保護効果が得られる現象を、吸入麻酔薬によるプレコンディショニングおよびポストコンディショニングという。近年吸入麻酔薬はセボフルランとデスフルランが主体である。吸入麻酔薬による心筋保護は、多くの動物実験や心臓外科手術を主とする臨床研究が進められており、当科でも長年研究が行われている。本講義では、特にデスフルランによる心筋保護を中心に解説や論文抄読を通じて専門的知識を修得することを目標とする。	
		障害者病態解析特論	顎顔面部の異常によって診断が可能な症候群の口腔および全身の特徴を理解するとともに、その原因となる因子に関する最新の研究成果に触れることにより、自らの研究能力を高める。また、科学的根拠にもとづいた知識と論理的な思考力をもとに診断、治療計画の立案、疾患の予防法を修得する。 さらに、歯の早期脱落、歯の先天性欠如、歯の萌出遅延、歯の形態異常、形成異常をきたす症候群の病態、発症メカニズムにおける最新の研究に関する英語論文を抄読し、プレゼンテーションするとともに、実際の症例において治療計画の立案を検討する。	
		高度咬合医科学特論	咬合状態や口腔内に装着する補綴装置（全部床義歯、部分床義歯）が生体に及ぼす影響を把握する目的で、高次脳機能活動と自律神経活動から得られる生体反応について学ぶ。特に、咬合違和感を発症する病態について高次脳機能（脳血流量の計測）、自律神経活動（交感神経と副交感神経の活動）、心理面（心理テスト）などのファクターから解説する。さらに、口腔内装置の条件の違い（義歯の材質や設計）について高次脳機能（脳血流量の計測）、自律神経活動（交感神経と副交感神経の活動）、心理面（心理テスト）などのファクターから解説する。	
		咬合医学・咀嚼器官と脳学特論	(概要) 近赤外線分光法を用いた咀嚼器官と脳活動の関係について体系的な知識を得ることを目的として開講する。特に、咀嚼器官の機能の一つである“味覚”とそれに付随する“嗅覚”と脳活動の関連についての講義を行い、全身の器官における咀嚼器官が担う役割について最近の論文等を解説する形式でボトムアップを行いながら理解を進め、咬合医学や咀嚼器官と脳との関連を解説する。  (オムニバス方式/全30回) (9 河田俊嗣/25回) 近年におけるヒトを対象とした脳機能画像法のトピックを最近の論文を踏まえて解説する。 (80 大塚剛郎/5回) 実際に近赤外線分光法装置を用い被験者として実験を体験し、そのデータ分析等の実験を行う。	オムニバス方式
		臨床画像診断学特論	今日の医療を支える総合画像診断について理解し、実践できるようになるため、各種検査法の基本的な撮影原理について学修するとともに、正しい検査を選択するために必要な基礎知識について学修する。また、学修した知識を活用して実際の検査が実践できるようになるための、総合画像診断に関する演習を実施する。さらに、画像診断能力を向上し、画像診断医としての基本的な能力を身に付けるため、読影と読影レポート作成に関する体験的講義を実施する。	
		教学 I R 特論	教学institutional research ( I R ) 特論は、高等教育の充実化において重要な役割を担う教学 I R の役割や業務対象などに関する基本的な知識を修得することを目的として開講する。授業は講義形式と演習形式授業の組合せにより実施し、教学 I R の定義や目的、役割や業務対象などに関する基本的な知識を講義によって学修する。その後、教学 I R の実務について、他大学の教学 I R 状況に対する実態調査を行うことにより理解を深め、さらに学修した内容を基盤として本学における実務調査や機能評価に参画することにより体験的な学修を行う。	
		内分泌学特論	外部環境の変化に対して、生体の内部環境の恒常性を維持することは生命の正常な維持にとって重要である。内部環境の恒常性維持は、生体内の液性因子調節機構である内分泌系と、神経系の二つが大きな役割を担っている。様々な内科疾患は内部環境恒常性維持の破綻であると理解され、多くの液性因子が関与している。従って、内分泌学は生命現象の解明のみでなく、疾患の解明と治療法開発に繋がるので重要である。そこで内分泌学の基礎を学ぶことにより研究者、教育者として発展性のある医療人育成を目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論 I	神経解剖学画像解析特論	本講義では実際に研究室で取得された画像所見、数値データをもとに(1)組織標本の画像データより求められる情報、(2)光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡の観察方法による画像データと数値データの分散、(3)これらの実験結果より考察される応用可能な方法論を立案しているための講義を行う。さらに、データ解析が実用的な顕微鏡写真の撮影法について神経解剖学的な考察とともに多データと比較、検討しうる最新の方法を研究室の機器を用いて修得し、本講義を通して神経解剖学の実験にかかわる特殊性、顕微鏡所見の要点が理解できることを目的として開講する。	
		口腔感染治療学特論	う蝕と歯周病に対する予防法と治療法のために細菌の病因を理解する。口腔内細菌による感染症としてう蝕と歯周病があるが、その発症と進展に関わる細菌の病原性状について講義を行う。具体的には、う蝕原性細菌であるStreptococcus mutans の病原因子について講義を行う。また、歯周病原細菌であるPorphyromonas gingivalis の病原性状と歯周病原細菌の歯周病に対する生体防御機構と歯周病原細菌の生体からの回避についても講義する。さらに、微生物学および免疫学的研究について最新の論文を解説しゼミ形式の講義を行う。	
		フッ化物応用科学特論	(概要) 齲蝕の健康格差の是正に有効なフッ化物応用の科学的事実を修得する。現在のところ、ヒトにおいて齲蝕予防の有効性が証明されているのはフッ化物応用とフィッシャーシーラントである。またフッ化物応用については、危険性、有効性について誤解があり、普及の妨げになっている。これらの点を十分に理解し、揺るがない姿勢を貫くことができるように科学的事実の基本とフッ化物応用の科学的事実について最新の知見をもとに、学修し、さらには今後の期待として、歯周病予防の可能性についても学修する。  (オムニバス方式/全30回) (14 荒川浩久/10回) 科学的事実の解釈の仕方とフッ化物応用の歴史、齲蝕予防に関する科学的事実と歯周病予防の可能性を解説する。  (29 木本一成/8回) フッ化物応用の危険性の指摘に関する科学的事実を解説する。  (54 川村和章/6回) フッ化物応用の有効性に関する科学的事実を解説する。  (55 宋 文群/6回) フッ化物応用によるフッ化物摂取量からの安全性に対する解釈を解説する。	オムニバス方式
		歯科法医学特論	歯科法医学の定義、特に法医学と歯科法医学の違いについて理解したうえで、死体現象や死因論の知識が歯科法医学にいかんにか大切かを理解する。講義各論は個人識別に関する検査方法を中心に行う。つまり、歯による身元確認・遺伝標識・スーパーインポーズ法・複顔法そしてモニタージュ写真である。さらに、歯科医師として必要な知識である法医学については、死の判定・死体現象・死因論そして物体検査である。医療過誤については、インプラント治療事故・麻酔事故をメインとして事例を解説する。	
		歯周組織における骨免疫学特論	慢性歯周炎の発生機序において、T細胞などの免疫細胞は重要な役割を担っている。ケモカイン、サイトカインなどにより活性化された免疫細胞は血管から遊走し、炎症組織への浸潤が進む。慢性歯周炎局所では、免疫細胞や線維芽細胞などが発現するケモカイン、サイトカインなどにより組織分解酵素産生や破骨細胞の分化が促され、骨破壊を伴う炎症病態に進行することから、これらの分子細胞メカニズムについての理解を進めることを目的として開講する。	
		プラーク・う蝕制御学特論	う蝕や歯周病の原因であるのみならず全身疾患との関わり合いも注目されているプラーク（バイオフィルム）の特性を履修するとともにバイオフィルム研究に使用されるin vitro、in vivo、ならびにin situモデルを比較し、それぞれの利点・欠点を理解する。その後、口腔内の多種細菌を培養可能なポリマイクロバイアルバイオフィルムモデルを解説し、本手法を用いた研究成果ならびに今後の展開を議論する。また、多種のイオンを放出するフィラーを含有する修復材料の脱灰抑制・再石灰化促進効果についても解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	特論 I	歯周・インプラント周囲組織の形態学特論	歯周組織・インプラント周囲組織の構造を学ぶために必要な形態学的知識と研究方法を学ぶ。講義は(1)歯周組織・インプラント周囲組織の微細構造、(2)歯周組織・インプラント周囲組織の微小循環と微細血管構築の三次元構築、(3)蛋白分解酵素-凍結乾燥法による骨添加・吸収機構の観察と解析、(4)コンピュータを用いた画像処理と解析の小ユニット順に行い形態学から再生歯科治療を考察できる知識を修得する。
		顎顔面インプラント再建外科学特論	本講義では口腔顎顔面領域の多発骨折症例、良性または悪性腫瘍による広範囲な顎骨欠損症例、骨萎縮症例等に対し、骨造成とインプラント補綴による咬合機能および顎顔面領域の審美・形態再建方法について修得し、顎顔面インプラント再建の診断・治療法を学ぶ。特に骨造成を成功させるための骨の科学を概説し、移植に使用される顎骨、腸骨、肩甲骨、鎖骨、肋骨、腓骨の特徴と採取骨の選択法、人工材料の特性について教授する。また、骨造成方法やインプラント埋入手技についても教授する。さらに、顔面のエビテーゼなどの審美・形態回復についても症例を供覧し、患者のQOLや精神心理的影響についても理解する。
		口腔高次脳科学特論	口腔情報は種々の中継核を経て脳の種々の領域に達する。体性感覚野（口腔領域）に至る情報は体性感覚連合野をはじめとして、種々の大脳皮質に至る。これら連合繊維、交連繊維について解説する。特に知能の座である前頭前野、本能行動を担う大脳辺縁系、体性運動野（口腔領域）、自律神経の中核である視床下部からのアウトプット領域を解説し、口腔由来の情報が神経性、内分泌性因子を経て末梢器官に影響することによって、全身統合に寄与していることを解説する。
		片頭痛と咬合学特論	片頭痛は、日常生活に支障をきたす疾患として知られているが、原因が多岐にわたると考えられているため、治療方法は原因療法ではなく対症療法が行われているのが現状である。本分野では、片頭痛の多くの原因の中の一つとして不正咬合との関連について研究を進めている。そこで本講義の前半では、頭痛学の基礎と臨床咬合学について講義を行う。後半では、片頭痛と顎顔面口腔領域に関する最新の研究論文を解説し、専門的な知識を習得することを目標とする。
		循環病態薬物療法特論	心臓・脳血管障害、糖尿病、高血圧症、脂質異常症（高脂血症）、肥満などの循環機能障害に関連した生活習慣病の薬物治療にまつわる近年の報告や当方で得られた知見や報告を加え、これら疾患が及ぼす全身及び口腔内循環調節機構への影響とそれに対する薬物療法についての見識を深める。さらに、罹患の原因となる生活習慣、口腔内環境について、そして罹患後の薬物治療の意義について解説加えながら議論を進め、口腔環境から見た生活習慣病に対する薬物治療に関する知識と応用力を身に付ける。
		酸化ストレス医学特論	酸化ストレスとは活性酸素・フリーラジカルが関わることにより生じる酸化障害を示している。酸化ストレスは口腔のみならず全身疾患の発症・増悪因子として広く認知されており、様々な病因の根拠となり得る。本講義では活性酸素・フリーラジカルの生成メカニズムなどの基本知識を解説した上で、とくに口腔疾患の病因因子としての酸化ストレスが関わる問題を解決するためのポイントを探索するものである。
		接着歯科科学特論	歯冠修復補綴に関して接着技法は欠かせない。近年、歯科分野の接着技術の発展には被着体となる歯質、コンポジットレジン、セラミックス、あるいは金属に対するプライマーやボンディングなどの新たな材料の開発が目覚ましい。本特論では、一般的な接着の基礎となる原理を基に、接着材の組成、化学的な反応メカニズムについての理論と、歯科領域における特有の接着理論の理解を深め、新たな材料の開発への基盤となる内容をゼミ形式で講義する。
		高度先進睡眠時無呼吸障害特論	閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する総義歯の影響について、研究成果を発表し、これまで多数の論文に引用されてきた。閉塞性睡眠時無呼吸症候群と歯牙の喪失、顎位の変化、神経調節機能の変化、それにより引き起こされる気道の変化、睡眠時無呼吸・低呼吸の変化などの関連事項について論じた論文を精読して研究方法について議論を進める。また、現在、根治治療として期待されている小児矯正治療、顎顔面外科治療の原理、効果、問題点などについても講義し議論を行う。

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論 I	高度先進矯正基礎学特論	現代矯正臨床の問題点を明確化し、今後の研究課題を展望し考察する。 (1) 歯科矯正学の発展、不正咬合の病院論、顎顔面の成長発育、歯の移動のバイオメカニクス、顎口腔機能の成熟、矯正の歯周病的背景、に関し講義する。(2) 矯正治療における歯周組織の改造現象を理解し、歯の移動と歯周組織の変化に関する研究を考察する。(3) 口腔機能の成熟過程を理解し、不正咬合と口腔機能不全に関する研究を考察する。(4) 不正咬合の背景因子としての骨格的要因を理解し、顎骨変形と不正咬合に関する研究を考察する。	
		歯周組織再生療法学特論	歯周組織再生療法について、歯根膜・歯槽骨・上皮・結合組織の役割について解説し、スキャホールド・サイトカインについて基本的な知識を講義する。さらに、歯周組織再生における骨膜の役割について考察する。また近年、歯周組織の再生様式や再生環境、使用される生体材料についての研究は日進月歩であり、最新の情報を解説する。特に歯周組織の再生様式や再生環境に関与する細胞の理解、生体材料の基本知識と応用（メンブレン、人工骨移植材、サイトカイン）を講義する。	
		眼科学における機能評価法特論	自律神経機能評価に用いられる瞳孔検査を習得し、歯科領域臨床研究への応用を探る。講義内容としては、瞳孔の解剖学、生理学、薬理学を概説する。瞳孔の大きさ、動きは自律神経（交感神経、副交感神経）でコントロールされており、その大きさや運動を電子瞳孔計で観察することにより、他覚的にかつ非侵襲的に自律神経の評価が可能であり、咬みあわせや口腔内環境の不良例など、各種歯科疾患の治療前後で瞳孔検査を行うことで、治療効果を他覚的に評価できることから、その理論と実際を講義する。	
		臨床歯科技工特論	近年の歯科技工では、生体親和性や審美性の観点から開発が進んだノンメタル材料の進化や、最新のデジタル技術による画像データと咬合機能データの融合によって、生体機能に調和したインレーから全部床義歯製作まで可能なCAD/CAM精密加工法が脚光を浴びている。本講義では、このような先進的な歯科技工に関する新規材料やデジタルデンティストリーに焦点を当てて、材料特性から加工技術に特化した題材をテーマとし、より先進的な歯科技工を学修する。	
	特論 II	唾液検査学特論	唾液検査は、歯科疾患に関する診断・予防・治療効果などの判定に用いられてきたが、近年は、全身疾患の検査に用いることが研究され、癌や感染症の検査として確立がされた唾液検査もあり著しく進歩を遂げている。本講義では、主に全身との関連に用いる唾液検査について現状を解説する。特に、唾液検査の理論と実際的な手法を理解することで、検査学としての意義を教授する。また、世界的にも唾液検査は注目されており世界の動向についても紹介する。	
		先端補綴治療学特論	(概要) 本講義では、ベーシックな補綴治療に加えて、より専門性の高い最新の補綴治療法について教授する。特に、オールセラミック修復を中心とした審美歯科治療、CAD/CAMシステムを用いた補綴治療、最新の接着技術、歯科金属アレルギー患者への対応、マウスピースを用いたスポーツ歯学治療、高齢者に対する補綴治療、欠損に対するインプラントや義歯治療さらには再生歯科医療の現状について講義し、先端補綴治療の理解を深めるとともに専門医としての素養を養う。  (オムニバス方式/全30回) (2 木本克彦/6回) 審美歯科治療とオールセラミックス修復法について講義する。 (40 星憲幸/3回) CAD/CAM補綴について講義する。 (66 大野晃教/3回) 接着科学について講義する。 (65 丸尾勝一郎/3回) インプラント治療学について講義する。 (90 斎田牧子/3回) 再生歯科医療について講義する。 (99 菅野京子/3回) 総義歯学について講義する。 (76 葉原淳之/3回) 歯科金属アレルギーについて講義する。 (75 熊坂知就/3回) スポーツ歯学について講義する。 (98 一色ゆかり/3回) 高齢者に対する補綴治療について講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論 II	臨床小児成育歯科学特論	<p>(概要) 各種症例に対し、医療面接、必要な検査を実施し、具体的な診断と治療方針の選択、治療計画の検討を行う。また、各症例に対する咬合誘導装置の設計と治療方法について修得する。具体的には、実際の臨床症例に対して症例毎に必要な検査方法の選択基準、検査資料を用いた分析方法を学修する。さらに分析結果を基にした治療方針の決定、治療計画を立案までを修得する。最終的には専門医取得に向けて必要な、症例別の対応方法と管理計画に関する知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (3 木本茂成/8回)</p> <p>臨床診断を学ぶ：発育段階別の症例に対し、小児患者とその保護者に対する医療面接と検査の方法、診断ならびに治療計画の立案に必要な知識を修得する。</p> <p>(58 浅里仁/4回) ケースプレゼンテーション1 (78 大久保孝一郎/3回) ケースプレゼンテーション2 (3 木本茂成/6回)</p> <p>症例別対応を学ぶ：各年齢段階別に、診断から立案した治療計画に基づく装置の製作方法と臨床的応用について学修する。</p> <p>(42 井上吉登/3回) ケースプレゼンテーション1 (41 横山三菜/3回) ケースプレゼンテーション2 (77 保田将史/3回) ケースプレゼンテーション3</p>	オムニバス方式
		歯科保健政策特論	<p>国内外のいずれにおいても口腔の健康状態の地域差があり、その縮小が重要な課題となっている。健康状態の地域差を縮小・解消するためには、住民個人の努力のみならず、それを支援する政策的な枠組みが必要となる。そこで、国際的には世界保健機関における文献やデータを用いて、国内については厚生労働省をはじめとする既存統計資料および国内外の専門誌等の文献を用いて、口腔の健康状態における地域差の現状を概説するとともに、その縮小・解消に向けて必要となるアプローチ方法について議論する。</p>	
		集学的統合歯周治療学特論	<p>歯周病の診断から基本治療、歯周外科、口腔機能回復治療までの治療の流れ、術式を習得する。また、同時に全身疾患が関連している重度歯周炎症例に対する集学的統合医療、全身疾患関（糖尿病、動脈硬化性疾患、非アルコール性脂肪性肝炎など）と関連した歯周炎に対する治療法と、それに関わる医科歯科連携の診療体系のあり方、および生活習慣病としての歯周病の予防管理のあり方などについて論文の抄読を通して議論を行い、歯周炎と全身疾患との関連について教授する。</p>	
		歯髄・硬組織再生医療学特論	<p>歯髄組織に多数の幹細胞が存在することが明らかにされ、歯髄組織が生体組織の再生における重要な細胞として脚光を浴びている背景に注目されていることから、本講義では、歯髄再生療法に焦点を絞り講義する。特に、現在の臨床応用、さらに将来の生体組織再生、臓器再生等について、基礎となる最新のトピックスをセミナー形式で指導し、歯科における再生医療の可能性を探ると同時に専門的な知識を修得することを目的として開講する。</p>	
		地域医療連携特論	<p>重篤な全身疾患のために要介護となった患者および高齢者では、自立して十分な口腔機能管理が行うことが困難なため、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等の重症合併症が発症しやすくなる。在宅要介護高齢者の口腔機能管理を行うには、歯科医療従事者のみならず医療・福祉・行政関係者等の協力のもと、定期的な訪問診療を中心とした地域歯科医療支援の構築が不可欠である。本講義では、在宅要介護高齢者の口腔機能管理および地域医療連携について、高齢者歯科学および麻酔科学等を専門とする教員が、それぞれの視点から専門的な解説を行うとともに、論文講読および議論を通して専門的な知識・態度・技能を修得することを目標とする。</p>	
		周術期の糖脂質代謝特論	<p>全身麻酔時に糖脂質代謝が悪化シケトン体等が増加する要因としては、術前絶食絶食、術中のブドウ糖投与の有無または投与量の差、手術侵襲によるインスリン抵抗性の増強等があげられる。しかしこれらは、これまでほとんど議論されていない分野である。本講義では、麻酔科学を専門とする教員が、本分野について基本および専門的な解説を行い、問題解決型の授業を展開する。学生は、論文講読や議論を通して、周術期の糖脂質代謝および管理法に関する専門的な知識を修得することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
（歯学研究科 歯学専攻（D））				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論Ⅱ	障害者行動管理特論	スペシャルニーズとしての健康支援、対人支援の方法の基礎と臨床に関する最新の研究成果に触れることにより、EBMに基づく医療の提供について討議し、自らの診療や研究に反映させることを目的とする。 知的障害、自閉症スペクトラム障害などの神経発達障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー、てんかんなどの神経疾患患者の歯科での対応（処置内容、行動調整）が呼吸や循環動態および影響および地域医療、包括医療における口腔保健支援システムについて最新の研究に関する英語論文を抄読し、プレゼンテーションを行い討議する。	
		デジタル補綴咬合医科学特論	歯科における3Dプリンターは、クラウン、ブリッジ、有床義歯、さらにはプロビジョナルやスプリント、マウスガードなどに应用可能と考えられる。当分野では特に高齢者に対する有床義歯（全部床義歯、部分床義歯）に関して3Dプリンターの特徴を応用した新たな構造とその製作方法、同時に新たな材質および歯の欠損を有する高齢者への有床義歯の提供方法について検討している。そして、有床義歯の装着による咬合構築が高次脳機能と自律神経活動におよぼす影響について研究を進め、高齢者のQOLの向上と健康寿命の延長の実現について共に考察する。	
		咀嚼器官の機能と機能障害学特論	（概要）咀嚼器官の機能と機能障害について学習し、当科の研究テーマの一つである、自家歯牙歯冠移植についての体系的な知識を得る。前半にて、咀嚼器官の機能とその機能障害についての講義を行う。後半では、機能回復のための自家歯冠移植の手法と今後の可能性について最新の研究論文を輪読しゼミ形式の授業を行う。  （オムニバス方式/全30回） （9 河田俊嗣/25回） 近年における自家歯牙歯冠移植についての知見を最新の論文等を活用し解説を行う。 （81 小泉創/5回） 実際に自家歯牙歯冠移植を行った例を症例を発表する形式で学修体験する。	オムニバス方式
		画像工学応用科学特論	各種画像工学的解析方法の研究への応用の実際について学修するため、様々な研究応用例などを通して解析の有用性について理解する。また、骨構造解析や骨密度測定などに関する演習を行うことにより、各種画像工学的解析方法におけるサンプリングの原理や、撮影後のデータ処理の手法に関する理解を深めるとともに、医用画像工学の応用技術に関して幅広い知識を身に付けるための授業を行う。さらに、技術応用の具体的な方法について体験的学修を行い、データの解析や結果の検証、考察の纏め方などについて総合的に学修する。	
		歯学教育学学修評価特論	歯学教育における授業評価の目的や客観的評価方法に関する基本的な知識を修得することを目的として開講する。授業評価が単なる学生評価のみを目的として行われるものではなく、授業科目の設定や開講順序の妥当性に関する評価、授業内容の評価や改善方策の立案、授業のアウトカムに対する評価などを含んだ複合的な目的に基づいて行われるものであることについて学修する。また、学修した内容を基盤として授業評価システムを構築し、授業評価とIR分析を行い、授業改善方策の立案に参画することにより体験的な学修を行う。	
		炎症性サイトカインと全身疾患特論	炎症性サイトカインは体内の液性因子の一つであり、ホルモンの性格をもつ。炎症性サイトカインにより、遠隔部位に細胞傷害を惹起することがある。炎症性サイトカインの持続刺激は、動脈硬化症、インスリン抵抗性増大、細胞傷害持続による悪性腫瘍に関与すると考えられている。慢性炎症の原因としてバイオフィームとよばれる微生物の構造体があり、生体内に存在するバイオフィームにデンタル・プラークがある。本講義では、デンタル・プラーク由来の炎症性サイトカインを含めた炎症性サイトカインの全身疾患発症への関与を学修していく。	
		神経解剖学微細構造観察法特論	本講義では組織標本の基本的な作製法、光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡の観察に用いられる各種の染色法、光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡の操作方法、これらの実験方法に関してさらに応用可能な方法論などを集約して修得するため講義を行う。さらに最新の論文を用いて、神経解剖学の諸分野にわたる多データ、多論文の評価づけと比較、ならびに最新の論文を輪読して論文データの価値評価について体験学習とともに講義を行う。本講義を通して神経解剖学の概念、顕微鏡所見の概念と理念が理解、応用できることを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論 II	口腔感染症学特論	口腔微生物叢の構造、機能および生物学的活性について理解するため、病原体の構造、生体防御の仕組みに焦点をあて、口腔感染症について講義を行い歯科医学、特に微生物学と免疫学の急速な進歩に対応できるように十分に学修し、感染防御、感染症の成り立ちを理解して対処できる知識を獲得する。さらに、口腔領域のみならず全身レベルに目を向け、口腔感染症と全身との関わりについて講義を行う。加えて、微生物学および免疫学的研究について最新の論文を解説しゼミ形式の講義を行う。	
		臨床予防歯科学特論	(概要) 口腔の2大疾患は齲蝕と歯周病であるが、現在ではスポーツ歯科医学、広義の口腔ケア、歯の損耗（酸蝕、咬耗、磨耗）、口臭など口腔衛生が担う臨床上の守備範囲は広がっている。これらの疾患の予防とコントロールに必要で有効なフッ化物応用、スポーツ時のマウスガードの使用、専門的口腔ケア、器質的・機能的口腔ケア、歯の損耗予防のための飲食、ストレス、薬剤服用、ブラッシングの改善、その他の歯科疾患に関する臨床予防歯科学の知識と技術を修得する。  (オムニバス方式/全30回) (14 荒川浩久/6回) 最新のフッ化物の局所応用と全身応用の知識と技術を修得する。  (29 木本一成/8回) スポーツ歯科医学とアンチドーピング活動に必要な知識と技術を修得する。  (54 川村和章/8回) ライフステージに応じた口腔ケアの知識と技術を修得する。  (55 宋 文群/8回) 歯の損耗と口臭予防に必要な最新の知識と技術を修得する。	オムニバス方式
		分子歯周組織再生学特論	近年、歯周組織再生研究は注目されている分野の一つである。日本ではエムドゲインゲル、欧米においてはBMP-2やPFDFG-bbなどの薬剤が歯周組織再生療法を誘導する薬剤として用いられている。そこで、歯周組織を構成する硬組織（セメント質・歯槽）と軟組織（歯肉結合組織や歯根膜）を再生させる薬剤の細胞への作用・特徴を歯周組織再生機序など交えて講義し理解を深めることを目的として開講する。	
		審美修復学特論	審美修復学は口腔内の機能的な回復を求めるとのみならず、より審美的な回復を追求する学問である。審美修復には、オフィスブリーチング、ホームブリーチング、ダイレクトコンポジットレジン修復法、各種セラミック修復法等があるがそれぞれに適用症が存在する。本授業では各種審美修復法の特徴ならびに適用症例を学ぶ。また、ブラウンスポット（褐色斑）の審美的再石灰化を目指しブリーチングによる再石灰化促進効果を見出した研究についても解説し、今後の展開を議論する。	
		歯周・インプラント周囲組織の微小循環特論	歯周組織とインプラント周囲組織の微小循環について基礎的ならびに臨床的知識を習得する。また、微小循環の視点から歯周組織の再生歯科医療や新たなインプラント表面性状を開発する。講義は(1)血管鋳型法を用いた微小循環による歯周組織再生療法の開発、(2)蛋白分解酵素-凍結乾燥法による骨増生療法の開発、(3)走査型電子顕微鏡を用いたインプラント表面構造の開発の中から一つもしくは複数を選択し、歯科基礎医学の立場から臨床に提言できる歯科医師を目指す。	
		有病者口腔管理学特論	超高齢化社会を迎えた現在、多くの全身性疾患や治療薬を使用している患者が存在する。本講義では全身性疾患に伴う口腔疾患や使用薬剤による口腔内の合併症や併発症の口腔管理法について修得する。特に全身性疾患に伴う口腔疾患では自己免疫性水疱形成疾患、口腔カンジダ症、シェーグレン症候群、エイズ、GVHD患者の口腔管理法を学ぶ。使用薬剤による口腔内の合併症や併発症では抗血栓療法やMROMJ、薬剤性口腔乾燥症患者の口腔管理法について学ぶ。また、がん治療に伴う周術期口腔機能管理の意義、終末期患者の口腔管理法について修得し、口腔と全身との関係や関連医学との係りについても理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
選択科目	特論Ⅱ	口腔全身統合科学特論	口腔から脳へ、脳から全身へを理解するためには、単にその経路を理解するだけでは不十分であり、神経科学的、内分泌学的視野を含め、より広い視野を必要とする。この領域に関係した種々の角度からの論文やレビューを提示し、それを読み解くことによって、複眼的視野を育成する。口腔と全身をキーワードに先端的な英語論文を提示、その読解を通じて、世界レベルの研究を理解する。	
		唾液腺病態科学特論	我が国の高齢化の進展は極めて急速であると共に、健康長寿の延長も進んでいる。それ故に、様々な疾患に罹患する可能性があり、唾液腺疾患を含めた病態を理解する必要がある。本講義では、唾液腺に発生する様々な疾患の病態生理学について習得することを目標にする。具体的には、(1)唾液腺炎症性疾患、(2)唾液腺腫瘍性疾患、(3)唾液腺嚢胞性疾患の講義を行い、様々な唾液腺疾患と病態生理学の関連について学修する。	
		抗加齢歯科医学特論	運動、睡眠、食生活、サプリメント摂取を考慮した健康増進あるいは生活習慣病予防に着目し、口腔内環境の改善と健康増進に関する最新の論文や、口腔の健康に関するあらゆる情報を探索し、それらの根拠を科学的に証明・実践するために必要な研究方法、動物モデル選択、結果の解析や評価方法について議論を進めながら解説を加える。さらに、積極的予防法としての口腔環境の改善が全身の健康保持・増進に繋がるという抗加齢歯科医学の見地より、全身-口腔循環系と疾病罹患の相互作用の可能性について議論しながら学修していく。	
		光線力学療法特論	光線力学療法 (Photodynamic Therapy) とは、生体内に光感受性物質 (光増感剤) を注入し、標的となる生体組織にある波長の光を照射して光感受性物質から活性酸素を生じ、これによって癌や感染症などの病巣を治療する術式であり、近年歯周治療にも応用が始まっている。本講義では、光線力学療法の概念と原理、応用に関し講義を行い、具体的な臨床応用例から、レッドコンプレックスに対する光線力学療法のあり方について考察する。	
		界面制御科学特論	歯科材料の表面性状は、接着や歯冠修復補綴装置の臨床的予後に影響する。本特論では、接着材や材料の化学的構造と物理的性状の基礎知識を高め、材料特有の性質を十分に発揮させるためには、歯あるいは材料間となる界面の性状により特性が変化すること、そして界面を制御することにより材料自体の特性が変化することについて講義により科学的な知識を高め、臨床的に長期間においても耐久性と安定性のある将来的な歯科材料についてゼミ形式で講義する。	
		高度先進麻酔科学特論	オレキシンは、麻酔科分野のみならず睡眠学において、現在最も注目の研究テーマの一つである。その作用機序の解明は、「なぜ眠るのか」という睡眠の根本の解明研究に繋がるからである。本講義は、オレキシンの呼吸中枢に対する作用機序・オレキシンの麻酔薬における作用機序に関する研究方法について基礎知識や手技を修得する。また三叉神経痛や歯科における慢性疼痛疾患経路の解明を目標に三叉神経の興奮伝達部位の解析方法を修得する。	
		高度先進矯正臨床応用学特論	矯正臨床の診断および治療を通し、現代矯正臨床の発展の歴史を理解し、今後の展開に関し考察する。具体的には、(1) 歯科矯正の診断法の発展を学習し、先進の包括的三次元診断を習得する。(2) 歯の移動のための矯正治療装置を適用し、治療結果を評価し考察する。(3) 顎整形装置を適用し、治療結果を評価し考察する。(4) 外科矯正治療の診断、手術シミュレーションを実施し、治療結果を評価し考察する。(5) 歯周矯正治療を実施し、治療結果を評価し考察する。(6) 成長発育期の症例の治療を實踐し、歯列および顎骨の成長を評価し考察する。	
		インプラント周囲組織・表面構造学特論	インプラント表面構造と周囲組織の関係についての研究は日進月歩であり、最新の研究内容について解説する。特に初期段階での治療様式(オッセオインテグレーション) およびバイオアクティブサーフェスにおける骨再生促進効果について講義する。また、インプラント周囲炎に罹患した際の、インプラント表面構造に対するデブライドメント法の因果関係について議論し、インプラント周囲炎の治療法の理解を深化させることを目的として開講する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(歯学研究科 歯学専攻 (D) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	眼科学と全身疾患特論	眼科疾患との関連が強い全身疾患を概説し、全身疾患がどのように感覚器である眼に疾患をもたらすのか、その病態生理を理解する。そして全身疾患の一症状としての歯科疾患もあることを認識する。講義内容としては、眼底は体の中で唯一、直接血管や神経（視神経）そのものを観察できる場所であり、そこから、糖尿病、高血圧、また視神経疾患や脳腫瘍などが見つかることもあることから、視神経疾患（虚血性視神経症）と歯の痛み、糖尿病（網膜症）と歯周病など眼科と歯科の関連が深い疾患を理解し、眼科、歯科領域から全身疾患を考察する。	
	特論Ⅱ ミニマルインターベンション 歯科臨床特論	最新の接着技法を取り入れたミニマルインターベンションによる歯科臨床は、齶蝕制御から義歯補綴治療まで、幅広い歯科疾患を対象として、必要最小限の処置で患者負担を軽減し、口腔の機能・形態の再構築や修復を行うものである。本講義では、最新の症例報告や、横浜研修センターで実施された臨床症例を題材として供覧し、現行の臨床術式を発展させて、より先進的材料や治療法の開発に向けた臨床研究の立案やデータの収集・分析を行うために必要な能力の向上を目的とする。	
研究指導科目	(研究指導)	<p>(概要) 各分野で特定の研究テーマに関して研究を行い論文を作成する。</p> <p>(1 榎木 恵一) 環境病理学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(2 木本 克彦) 咀嚼機能制御補綴学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(3 木本 茂) 口腔機能成育歯科学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(4 山本 龍生) 社会歯科学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(5 三辺 正人) 歯周病学分野をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(6 石井 信之) 歯髄生物学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(7 森本 佳成) 有病高齢者歯科学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(8 玉置 勝司) 顎咬合機能回復補綴医学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(9 河田 俊嗣) 歯科矯正学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(10 櫻井 孝) 放射線応用科学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(10 櫻井 孝) 歯学教育学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(11 佐藤 温洋) 口腔科学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(12 高橋 理) 神経組織発生学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(13 浜田 信城) 微生物感染学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(14 荒川 浩久) 口腔衛生学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(15 山田 良広) 法歯科学分野をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(16 合田 征司) 口腔分子細胞制御学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(17 向井 義晴) う蝕制御修復学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(18 松尾 雅斗) 歯科形態学をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(19 有坂 博史) 麻酔科分野をテーマとして研究指導を行う。</p> <p>(20 不島 健持) 歯科矯正学分野をテーマとして研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（歯学研究科 歯学専攻（D））			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	（研究指導）	(21 児玉 利朗) インプラント・歯周病学をテーマとして研究指導を行う。 (22 市邊 義章) 眼科学分野をテーマとして研究指導を行う。 (23 岩淵 博史) 顎顔面外科学をテーマとして研究指導を行う。 (24 山本 利春) 高次脳機能学をテーマとして研究指導を行う。 (25 猿田 樹理) 唾液腺健康医学をテーマとして研究指導を行う。 (26 高橋 俊介) 循環制御歯科学をテーマとして研究指導を行う。 (27 吉野 文彦) 光歯科医学をテーマとして研究指導を行う。 (28 二瓶 智太郎) クリニカル・バイオマテリアルをテーマとして研究指導を行う。 (32 井野 智) ミニマルインターベンション補綴学をテーマとして研究指導を行う。	

学校法人神奈川歯科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神奈川歯科大学 歯学研究科				神奈川歯科大学 歯学研究科				
歯科基礎系	9	-	36	<u>0</u>	-	<u>0</u>		平成29年4月募集停止
歯科臨床系	9	-	36	<u>0</u>	-	<u>0</u>		平成29年4月募集停止
				<u>歯学専攻</u>	<u>18</u>	-	<u>72</u>	専攻の設置(届出)
計	18	-	72	計	18	-	72	
神奈川歯科大学 歯学部 歯学科				神奈川歯科大学 歯学部 歯学科				
	120	-	720	120	-	720		
計	120	-	720	計	120	-	720	
神奈川歯科大学 短期大学部 歯科衛生学科				神奈川歯科大学 短期大学部 歯科衛生学科				
	120	-	360	120	-	360		
神奈川歯科大学 短期大学部 看護学科				神奈川歯科大学 短期大学部 看護学科				
	80	-	240	80	-	240		
計	200	-	600	計	200	-	600	